

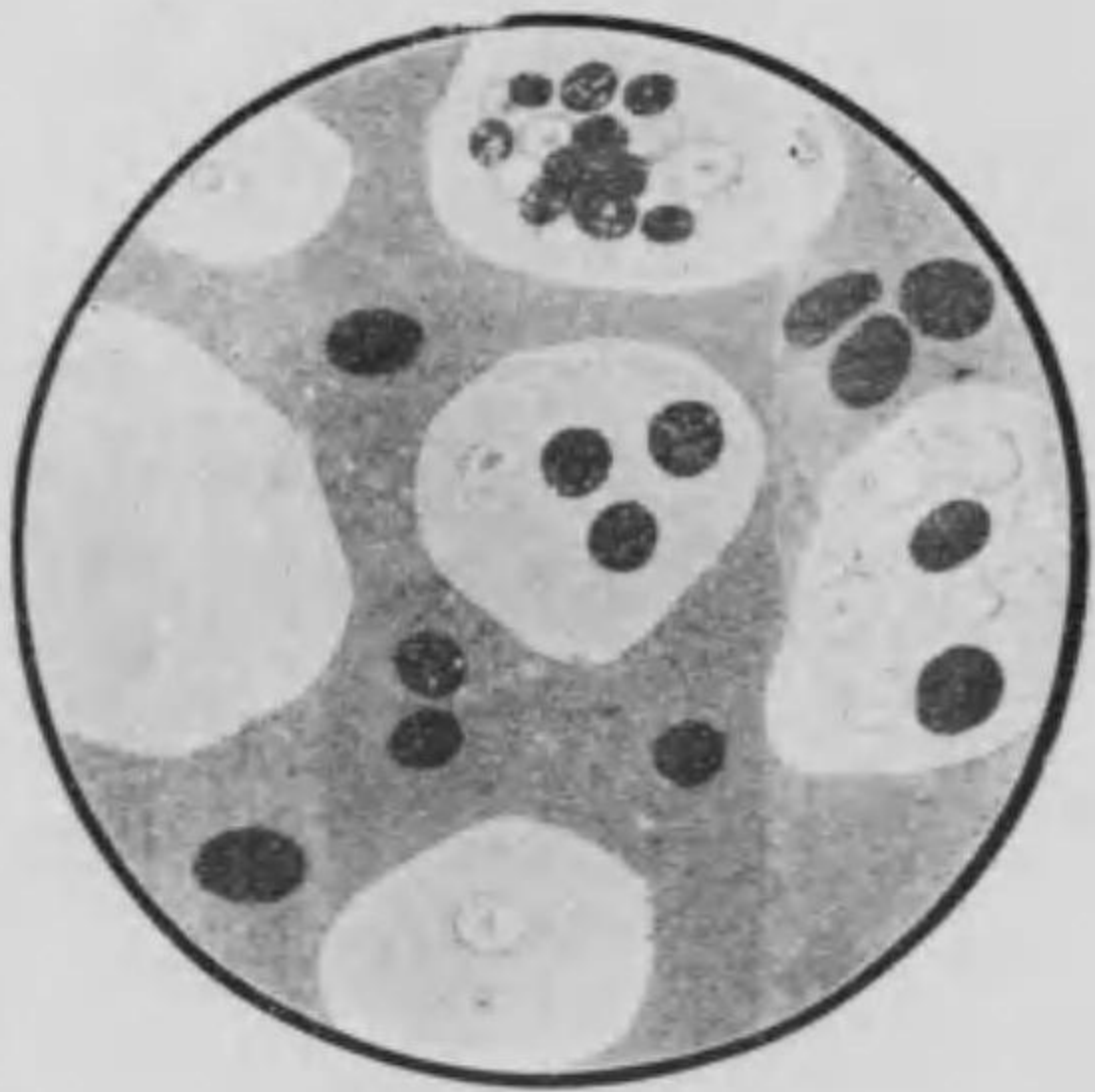
デグラ、シー (Grassi) カルツリス Katulis 氏等ノ注意スルトコロトナリ殊ニ一八八三年コ
 ツホズ、オチ氏ハ埃及及印度ニ於テ赤痢糞便ヨリ「アメーバ」ヲ檢出シ其病因學的關係ヲ報
 告シテヨリ以來諸家ノ研究ハ殆ント其ノ病原ト認ムルモノ續出シタリシカ一九一三
 年ニ至リ原蟲學者シャウヂン Schaudinn 氏ガ微生物學的詳細ナル研究ヲ遂グルニ及ン
 デ人腸内「アメーバ」ヲ大腸「アメーバ」及ビ赤痢「アメーバ」ノ二種ニ區別シ其大腸「アメーバ」
 ヲ「エントアメーバ・コーリ」 Entamoeba coli 赤痢「アメーバ」ヲ「エントアメーバ・ヒストリチ
 カ」 Entamoeba histolytica ト命名シ以テ大腸「アメーバ」ハ健康腸内ニ存在シ赤痢「アメーバ」
 ハ赤痢腸内ニ寄生スルモノナルヲ明ニシ今ヤ疑モナク赤痢「アメーバ」ハ其赤痢病原ナ
 ルヲ確定シ得ルニ至レリ

第四百一十圖
赤痢「アメーバ」



形態 圓形又ハ橢圓形ノ細胞體ニシテ直徑二十乃至五十ミク
 ロンヲ算シ通常大腸「アメーバ」ヨリモ大ナリ成形成質ハ區分明瞭
 ナル内層 Entoplasma 及外層 Ectoplasma ヨリ成リ境界判然タリ其
 ノ内層ハ顆粒狀ヲ呈シ常ニ數個乃至十數個ノ赤血球ヲ含ミ又
 多數ノ空胞ヲ見ル其他細菌ヲ含ミ稀レニ膿球ヲ見ルコトアリ外
 層ハ硝子様ヲ呈シ濃稠ニシテ光輝アリ核ハ内層ニ在リ偏方ニ
 位シ小ニシテ圓形乃至卵圓形ヲ呈シ其直徑五乃至七ミクロン
 ヲ算ス且ツ核ノ染色質ハ少ナク又屈折力弱キヲ以テ運動時ニ

第四百二十四圖
赤痢「アメーバ」
(無染色標本)



見ルコト困難ナリ而シテ其ノ運動ハ即チ
 匍匐運動ニシテ先ヅ體ノ一方ニ於テ其
 ノ外層ハ延長シテ硝子様突起即チ假足
 Pseudopodien, Pseudopodia ヲ出シ次テ全成
 形質ハ之レニ向フテ流入シ爲メニ忽然
 トシテ突起ヲ消失ス消失スレバ又直ニ
 更ニ他方ニ突起現ハレ其ノ移行運動甚
 ダ活潑ナリ是レ所謂「アメーバ」様運動ニ
 シテ若シ保溫顯微鏡下ニ於テ三十七度

ニ保ツトキハ運動活潑ナルモノハ一分間ニ二三十回ノ形態變化ヲ見ルコトアリ
 耐久體 Dauerform, Dauerzyste, Sporeform, Cyst 赤痢「アメーバ」ハ其生活ニ障礙ヲ蒙ルトキ
 ハ包囊 Cyste, Cyst ヲ形成スルニ至ル之レ即チ耐久體ニシテ即チ患者ニアリテハ快復時
 ニ見出ス而シテ其ノ包囊ヲ形成セントスルヤ先ヅ核ノ染色質ハ膨大シ核ノ周界不明
 トナリ次テ染色質ハ進んで成形成質内ニ脱ケ出ツルニ至ル且ツ核ハ退行變形ニ陥リ小
 圓板狀トナリ遂ニ成形成質外層部ニ驅逐セララル此ノ際成形成質ハ漸次多數ノ隆起ヲ來シ
 テ後チ體ヨリ分離シ直徑約三乃七ミクロンノ圓形被膜トナリ内部ハ輪狀纖維様構造
 テ呈シ外部ハ二重ノ輪狀ヲナシ褐色ヲ帯ヒ、強ク光線ヲ屈折ス爰ニ於テ内部構造ハ見

ル能ハザルニ至ル是レ即チ包囊ナリ而シテ此ノ包囊内ニアルモノハ猶ホ死滅セズ之レヲ動物殊ニ猫ニ與フレバ三四日ノ後感染スルニ至ル

染色 ギームザ氏液ノ如キ血液染色液ヲ以テスレバ外屑質ハ内屑質ヨリハ強ク着色シ核ハ染色質ノ爲メニ赤色ニ染色ス

人工培養 種々ノ培養法ヲ試ミタルモノアレモ未ダ純粹且ツ確實ニ赤痢「アメーバ」ヲ培養シ得タルモノナシ但シ他ノ「アメーバ」ハ培養スルヲ得タリ

抵抗力 赤痢「アメーバ」ハ室温ニ於テ數時間ノ後運動休止スルヲ常トス稀レニ十時間、十五時、二十四時間猶ホ運動ヲ營ムモノアリ若シ血温(七三度)ニ保ツ時ハ猶ホ長時生存ス、一%硼酸水、〇・二%醋酸水、三%單寧酸水ハ未ダ何等死殺作用ナシ之レニ反シテ若シ五千倍規尼涅水ヲ與フルキハ即時ニ百倍醋酸水ニテ十分間内ニ死ス包囊「アメーバ」ハ千倍「フォルマリン」ニ逢フモ死セズ而シテ「アメーバ」ノ運動休止スルヤ先ヅ圓形トナリ漸時内外二層ノ分界不明トナリ退行變性ニ陥リテ脂肪様光輝ヲ放チ遂ニ顆粒狀ニ崩解スルニ至ル

生活作用 赤痢「アメーバ」ハ其ノ生活作用トシテ一種ノ酸酵素ヲ産出シ次テ組織ニ障害ヲ來スモノナルベキモ未ダ其ノ本性明ナラズ

動物試験 赤痢「アメーバ」ノ動物試験ハレツシ Taché 氏初メテ之レヲ行ヒタリ即チ氏ハ「アメーバ」赤痢便ヲ犬ノ胃及大腸ニ流入シテ感染セシムルヲ得タリ次テ諸家之レヲ

試ミ多クハ陽性成績ヲ擧グルヲ得タリクルーゼ及ハスクアール、Kraus & Pasquale 氏ハ赤痢「アメーバ」性肝臟膿瘍汁ヲ猫ノ腸内ニ浣送シタニル感染セルヲ見タリ而シテ若シ「アメーバ」赤痢便ヲ餌食セシムル時ハ感染セズ是レ胃液ニ依リテ殺滅セラル、ガ爲メナルベシ又動物試験ニ當リテ注意セザルベカラザルハ流行地ニ於テハ感染動物ナル犬、猫、猿等ガ自然ニ屢々本病ニ感染スルコト是レナリ故ニ試験前豫メ先ヅ之レニ留意セザルベカラズ

繁殖狀況 赤痢「アメーバ」ノ繁殖狀況ハ分裂 Schizogonic, Schizogony 出芽 Sporogonic, Sporogony ノ二ニ法ヨリテ増殖ス而シテ大腸「アメーバ」ノ如ク八個ノ娘胞ヲ生スルコトナシ

検査法 左ノ如シ

一 無染標本検査法 患者糞便中ニ在リテ其血液ヲ混ゼル粘液ノ一滴ヲ載物硝子上ニ採リ之レニ食鹽水ヲ加ヘ直ニ覆蓋硝子ヲ被フテ輕ク壓シ乾燥ヲ防グ爲メニ周圍ハ、ワゼリンヲ塗リテ封ジタル後鏡檢スル時ハ活潑ニ運動セル赤痢「アメーバ」ヲ見ルベシ若シ急性患者ナルキハ一視野中ニ十數個ヲ見ルコト稀レナラズ慢性患者ハ其ノ數少ナク恢復期ニハ見出困難ニシテ往々包囊態ヲ見ルコトアリ而シテ其ノ鏡檢上赤痢「アメーバ」ノ特徴トシテハ形態大ナルト、運動活潑ナルト、假足ノ伸長強盛ナルト及體內ニ赤血球ヲ含ムコト是レナリ

二、染色標本検査法 患者糞便粘液ヲ薄ク塗布シテ(際此覆蓋硝子ヲ使トス)未ダ乾燥セザル内ニ其ノ標本面ヲ下方トナシ豫メ加温セル次ノ固定液ニ約十五分間漬ケ以テ固定スベシ

(固定液)

飽和昇汞水 一〇〇・〇 無水「アルコール」 五〇・〇 水醋酸 五・〇

次テ水洗後次液ニテ昇汞ヲ洗フ

七十%「アルコール」 一〇〇・〇 沃度丁酸 數滴

次テ水洗後次液ニテ染色ス

「ヘマトキシリン」液、又ハ「サフラニン」液

更ニ水洗シタル後チ「アルコール」次ニ「キシロール」後チ「バルサム」ニ對シテ鏡檢ス

三、切片標本検査法 一般ノ如ク切片標本ヲ製シタル後ギームザ氏液「ヘマトキシリン」エオシン「液、鐵」ヘマトキシリン「サフラニン」液「メチール」紫液等ニテ染色スルニアリ

二 四胞「アメーバ」 *Entamoeba tetragena*

「エントアメーバ」テトラゲーナ

名義 「エントアメーバ」テトラゲーナハ殊ニ東洋ニ於ケル熱帶赤痢患者ニ見出セラレル病原「アメーバ」ニシテ其ノ分裂増殖ニ當リ四個ノ娘胞ヲ出スヲ以テ即チ四胞「アメーバ」

第四百三十四圖



ナゲラトテ・パーメアトソエ
子胞ノ核四ハ B 體筒ルセ長成ハ A

バノ名ヲ得タリ(大腸「アメーバ」ハ「バ」ノ名ヲ得タリ)其ノ形態、運動及造構等ハ全ク赤痢「アメーバ」ト同ジト雖核ノ造構ヲ異ニス即チ「エントアメーバ」テトラゲーナノ核ハ運動時ニ於テモ能ク之レヲ明視シ得ベク其ノ形狀圓板狀ニシテ中央ニ一個ノ「カリオゾーム」アリ且ツ此ノ「カリオゾーム」ト核膜トノ間ハ網狀ヲナシ多數ノ染色質アリ又核膜ハ稍ヤ厚シ

日本「アメーバ」 *Amoeba japonica* 一九〇九年小泉氏ガ赤痢便ヨリ見タルモノナリ

赤痢「アメーバ」類似鑑別表

名 稱	大 小	運 動	假 足	成 形 質
赤痢「アメーバ」 <i>Entamoeba histolytica-Schaudinn</i> 1903	二十乃至五十「ミクロン」	盛	力強シテ指狀ヲ呈シ光線屈折	顆粒狀ニシテ多數ノ空泡アリ且ツ赤血球ヲ含ム 硝子標ニシテ光輝アリ内層トノ境界判然タリ
四胞「アメーバ」 <i>Entamoeba tetragenae-Viereck</i> 1907	十乃至五十「ミクロン」	盛	指狀ヲ呈シ光線屈折力強シ	顆粒狀ニシテ多數ノ空泡アリ且ツ赤血球ヲ含ム 硝子標ニシテ光輝アリ内層トノ境界判然タリ
大腸「アメーバ」 <i>Entamoeba coli-Schaudinn</i> 1903	十乃至二十「ミクロン」	強 盛	小ニシテ鈍圓狀ヲ呈ス	灰白色微細顆粒狀ヲ呈シ空泡アリ 暗褐色ニシテ光輝ナク内層トノ境界不明ナリ

病原性	純粋培養	染色	増殖	核
「アメーバ」性赤痢病	未ダシ	キムザ氏液ニ内層ハ淡青色外層ハ暗青色、核ハ淡紅色、着色ス	二分葉並出芽法	不明瞭ニシテ染色質ヲ含ムト少ナシ、小「カリオソーム」アリ
「アメーバ」性赤痢病殊ニ東洋ニ多シ	未ダシ	キムザ氏液ニ着色不真ナリ	二分葉及出芽法ニシテ出芽ニ依リ八胞ヲ出ス	明瞭ニシテ核膜及多數ノ染色質アリ大「カリオソーム」アリ
健康人腸内ニ在リテ全ク非病原性ナリ	疑	キムザ氏液ニ内層ハ暗青色外層ハ淡青色、核ハ赤色ニ着色ス	二分葉及出芽法ニシテ出芽ニ依リ八胞ヲ出ス	明瞭ニシテ核膜及多數ノ染色質アリ大「カリオソーム」アリ

三 大腸「アメーバ」 Amoeba coli Lisch

「エントアメーバ・コロリー」 Entamoeba coli Schaudinn

發見 一八七五年レツシ「Yoch」氏ガ人ノ腸内ヨリ發見シタル者ニシテ「アメーバ・コロリー」

第四百四十四圖



エントアメーバ・コロリー
 1 甚ダ若キ個體
 2 成長セル個體
 3 多數分裂ノ初期
 4 多數分裂ノ末期
 5 八個ノ胞體

「Amoeba coli」ト名ケタリ而シテ當時大腸「アメーバ」ノ意義明瞭ナラザリシガ一九〇三年シャウデン Schaudinn 氏ノ研究ニ依リ明カニ赤痢「アメーバ」ト區別スベキモノトナリ「エントアメーバ・コロリー」 Entamoeba coli ナル名ヲ命ゼラル、ニ至レリ

所在 健康人ノ腸内ニアリ其他家畜ノ腸内ニモ見出ス而シテ全ク非病原性ナリ
 形態 赤痢「アメーバ」ヨリハ小ニシテ約其二分ノ一ナリ即チ直徑十乃至二十「ミクロン」ヲ算ス成形質ハ液狀ヲ呈シ内層ニ圓形胞狀ノ核アリ更ニ核内ニ數個ノ核内粒 Kernchenkörper アリ染色質及核仁質ヨリ成ル又核膜ハ厚シ而シテ大腸「アメーバ」ハ休止時ニ於テモ内層及外層ノ分界ハ判然セズ之レニ反シテ核ハ休止期ハ勿論運動時ト雖明視スルヲ得ベシ又體內ニ赤血球ヲ含ムトナシ

繁殖 大腸「アメーバ」ハ分裂及發芽法ニ依テ増殖ス其分裂ニ依ルモノハ即チ先ヅ核ハ亞鈴狀トナリテ直接分裂ヲ來シテ二個ノ蟲體トナリ其ノ發胞ニ依ルモノハ先ヅ體ノ表面ニ膠様膜ヲ生シ核ハ變化ヲ來シ遂ニ八個ノ娘胞核トナリ次デ娘胞核ノ周圍ハ膠様質ヲ以テ包マレ以テ成形質即チ母體モ八分シテ八個ノ小「アメーバ」ヲ新生スルニ至ル

耐久體 大腸「アメーバ」ハ其發育ニ障礙ヲ來スヤ屢々被囊ヲ形成シテ耐久體ヲ生ズ
 人工培養 未ダ人工的ニ純粹培養シ得ルニ至ラズト雖細菌トノ共同發育法ニ依リテ増殖スカルトリス Nutulis 氏ハ枯草浸汁ヲシャーレンゲル Schardinger 氏ハ枯草浸寒

天、マズグレイヴ及クレীগ Musgrave & Cleeg 氏ハ次ノ培養基ニ依リ腸内アメーバヲ發育セシメタリ

寒天 二〇・〇 食鹽 〇・五 肉エキス 〇・五 水 一〇〇〇・〇

之レニ一%ノ比ニアルカリ液ヲ加ヘベトリ氏皿ニ入レタル後アメーバ赤痢粘液ヲ混ジ培養スルハアメーバハ細菌類ト共同發育ヲナシ増殖スルニ至ル又更ニ同氏等ハマルセール港附近ノ水、土中ニ雜生アメーバヲ見タリ

口腔アメーバ *Entamoeba buccalis* 人ノ口腔ニ存在スルアメーバニシテ遠々ステルベルグ Sternberg 氏ノ發見ニ係リ近クプロワセツク Rowazock 氏ノ研究ストロトナリ又最近パス Bass 氏等ハ特ニ齒槽膿瘻ニ著シク見出し得タリ

四 固有アメーバ *Amoeba princeps*

「アメーバ・プリンセプス」

名義 固有アメーバ即チアメーバ・プリンセプスハ非病原性ニシテ所在最モ廣汎且ツ容易ニ見出し得ルヲ以テアメーバ實習上甚ダ便宜ナリトス

分離 枯草浸汁ニ忽チ増殖ス即チ枯草ヲ適宜ニ水中ニ浸漬シ置クハ同時ニ多數ノ細菌ト原蟲發育シ數日ノ後チ直徑約百ミクロンヲ算シ顆粒狀成形質ヲ呈スルノ大アメーバノ多數ニ増殖スルヲ見ルベシ是レ即チ固有アメーバナリ

形態 大アメーバニシテ成形質ノ外層ハ硝子様ヲ呈シ内層ハ顆粒狀ニシテ數個ノ空胞アリ核ハ圓形ニシテ光輝ヲ放ツ運動ハ活潑ニシテ盛ンニ假足ヲ出ス若シ醋酸水ヲ滴下スルハ核ハ著明ニ出現シ來ル

染色 「アンモニアビクロカルミン」液ニ依リ核ハ強ク紅色ニ著色スルモ成形質ハ淡紅色ニ染色ス

増殖 固有アメーバハ分裂及出芽ニ依リテ増殖ス

耐久體 發育ニ障碍ヲ來ストキハ往々包囊ヲ形成シ耐久體ヲ生ズ

培養 固有アメーバハ雜菌ト共ニ又枯草或ハ藁浸液ヲ混ジタル寒天培養基等ノ固形培養基ニ發育セシムルヲ得ベシ

五 爾他アメーバ類

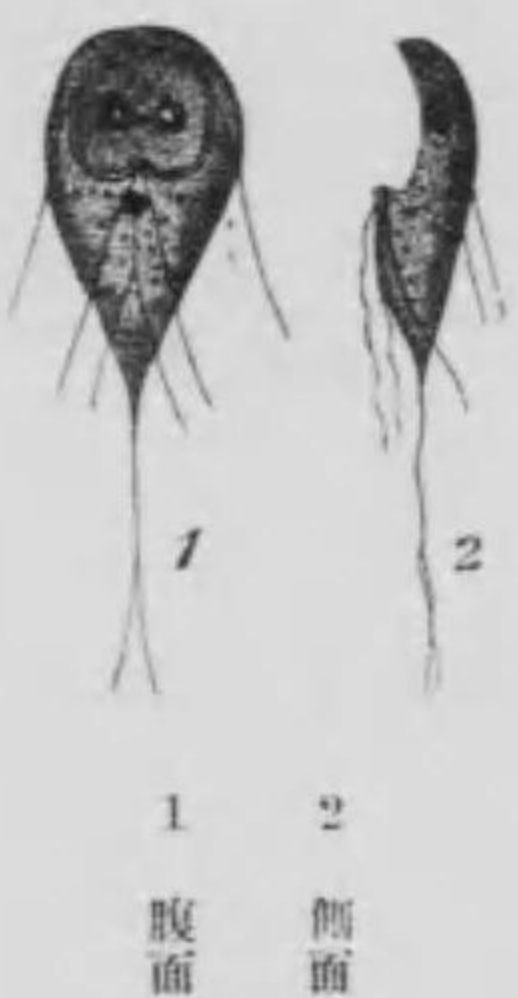
爾他アメーバ類トシテ動物殊ニ狸々、獼猴、豚、鼠、蛙、龜、蛭等ノ腸内ニ寄生スルモノアリ或ハ人ノ生殖器等ニ見出し又ハ水、土地中ニ存在スルモノアリ

第十 腸内原蟲類 Darm-Protozoen

アメーバノ外人ノ腸内ニ寄生スル主要ナル腸内原蟲類左ノ如シ

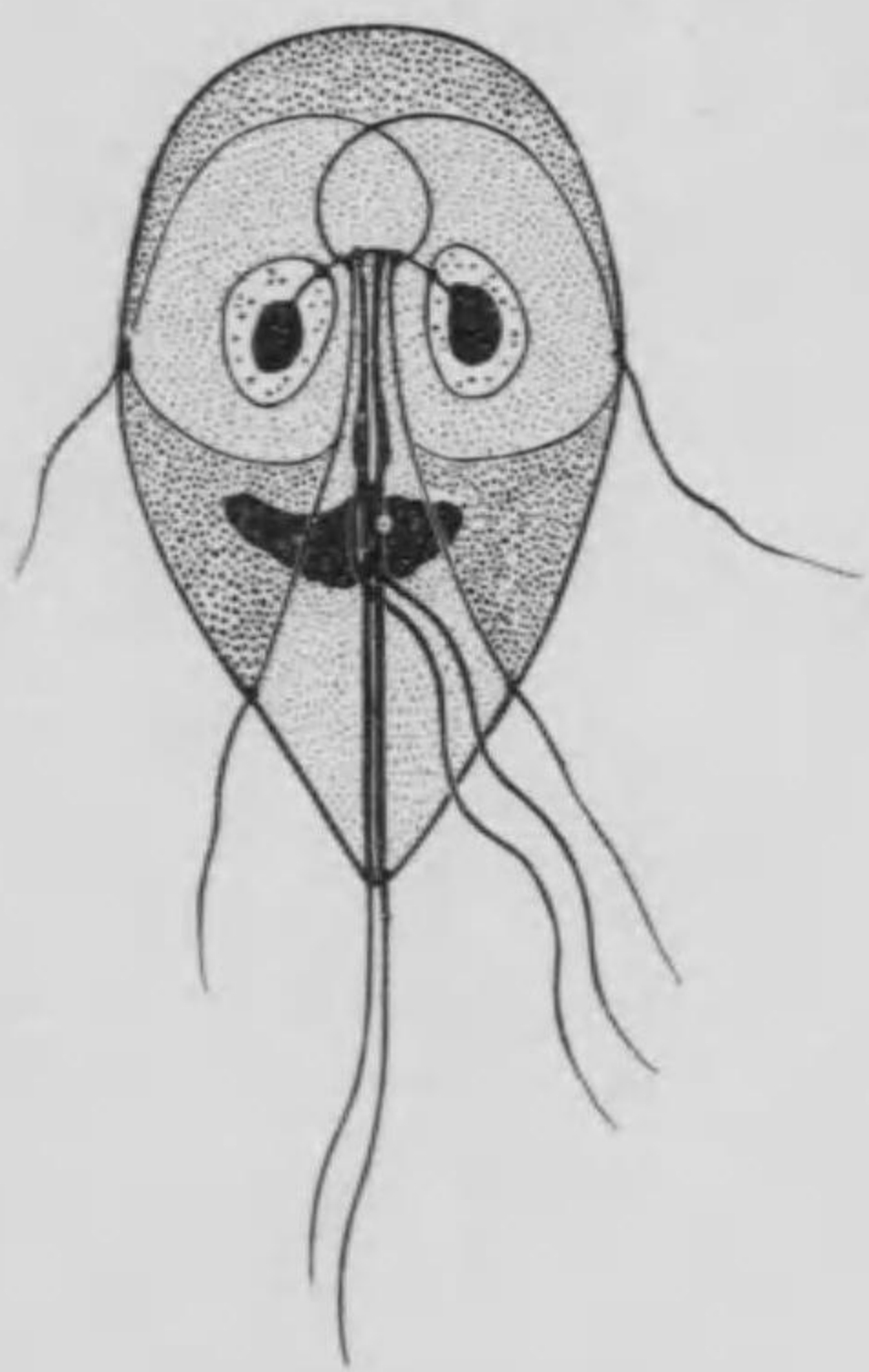
一 腸内「ランブリア」*Lambia intestinalis*
Megastoma entericum

發見 ランブル「Lamb」氏が初メテ小兒糞便ノ粘液ヨリ發見シタルモノニシテ爾來健
康人殊ニ結核性小兒ノ糞便ニ屢々見出セラレタリ且ツ好シク十二指腸及空腸ニ寄生



1 腹面
2 側面

第四百五十五圖
腸内ランブリア



「ランブリア」ノ構造式圖
(Beven 網)

アリモトリツ及ホルツル
Moritz & Holz 氏ハ慢性胃加答
兒患者ノ糞便中ヨリ二十四
時間内ニ其數實ニ百八十億
萬個ヲ算シタルコアリキ而
シ人ノ外猶ホ犬猫、羊、家兎、鼠、
南京鼠等ノ腸内ニモ見出ス
形態 西洋梨子狀「Triform」ヲ
呈シ長サ十乃至二十「ミクロ
ン」幅五乃至十「ミクロン」ヲ算

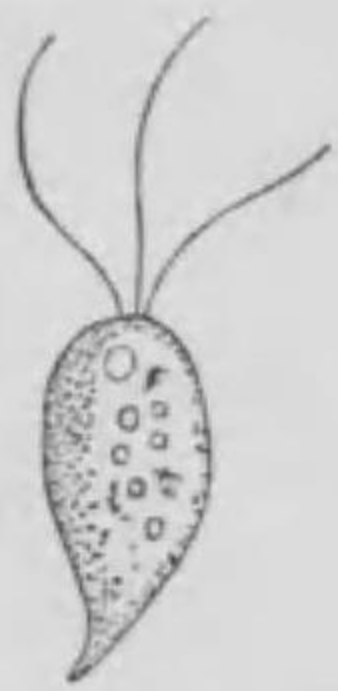
シ上方ハ膨大シ下方ハ尖リ其ノ上方腹面ニ吸盤アリ圓形ニ陷凹シ且ツ其ノ周縁ハ收
縮性ヲ有シ上方背面ハ著シク隆起ス故ニ腹面ト側面ノ狀甚ダ異ナレリ而シテ體ヨリ
規則正シク四對(即チ八條)ノ鞭毛ヲ出ス即チ其ノ第一對ハ吸盤ノ兩側ヨリ第二及第三
對ハ其ニ吸盤ノ下端ヨリ第四對ハ本體ノ下尖端ヨリ生シ何レモ長サ七乃至十四「ミク
ロン」ヲ算シ種々ノ運動ヲナス而シテ鞭毛起根部ニハ隆起シテ著明ナル成形質ハ一般
ニ顆粒狀ヲ呈シ核ハ吸盤内ニ通常二個アリ亞鈴狀又ハ馬蹄狀ヲ呈シ互ニ索條ヲ以テ
連結ス且核小體モ亦タ然リ又本體ノ下方ニ大塊體アリ然レモ其本態未ダ明カナラズ
増殖 腸内「ランブリア」ハ分裂ニ依リテ増殖ス
耐久體 二個交合ノ後卵圓形ノ包囊ヲ形成シ耐久體トナリ糞便ニ排泄セラレ
接種試驗 腸内「ランブリア」ノ包囊ヲ形成セルモノハ糞便ト共ニ排泄セラレテ飲料水
又ハ食物ニ混ズルキハ之レヲ飲食スレバ容易ニ寄生感染セシムルヲ得ベシベロンチ
ト及グラシー「Perronchio & Grassi」氏ハ同法ヲ以テ鼠及南京鼠ニ感染セシメ得タリ
検査法 「アモーバ」検査法ト同シ

二 腸内「トリコモナス」*Trichomonas intestinalis*
Cercomonas intestinalis

發見 マルシヤン及ロイカート Marchand & Leukart 氏之レヲ報セリ

腸内トリコモナス

圖六十四百第



スナモコリト内腸

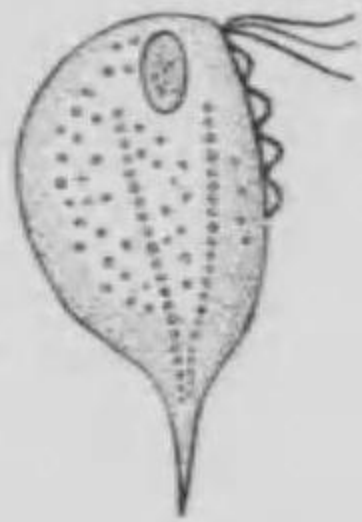
形態 長サ約十二ミクロンヲ算スル卵圓形體ニシテ三條ノ鞭毛ヲ出シ且ツ波動膜アリ而シテ分裂ニ依リテ増殖シ又包囊ヲ形成ス

所在 殊ニ小腸ノ亞爾加里性内容ニ寄生シ下劑ニ依リ糞便中ニ屢々見出ス又胃痛患者ノ吐物中ニ見タルコアリ

類似 トリコモナス 左ノ如シ

- 一 人セルコモナス (Trichomonas hominis) 約直徑十ミクロンヲ算スル梨子狀體ニシテ一條ノ鞭毛アリ活潑ノ運動ヲナス而シテ稀レニ人ノ腸内ニ寄生シ糞便ニ現ハル
- 二 モーナス (Monas) 殆ンド人セルコモナスニ類似シ肥キ長鞭毛ヲ有ス
- 三 ボッ・ユリナリーリウス (Bobo urinarius) 腐敗亞爾加里性尿ニ屢々見出スルモノニシテ全く非病原性ナリ
- 四 腔トリコモナス (Trichomonas vaginalis) 遠ク一八三七年既ニドンネ Donne 氏ノ發見シタルモノニシテ殊ニ女子ノ酸性腔炎滲出液ニ見出シ其他月經並ニ妊娠中ニ見ル又酸性尿ヲ含ム膀胱中ニ寄生スルコアリ而シテ其ノ形態ハ殆ンド腸トリコモナスト同ジク直經約二十ミクロンヲ算シ三乃至四條ノ鞭毛アリ且ツ菲薄ナル波動膜ヲ有ス又卵圓形ノ核及多數ノ核樣小體ヲ見ル

圖七十四百第



スナモコリト體

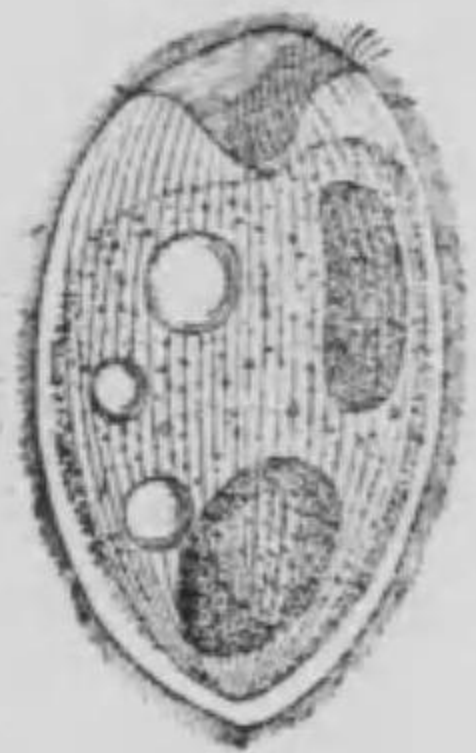
三 大腸「バランチデューム」 Balantidium coli

發見 遠ク既ニ顯微鏡ノ父「レーウエンフーク」 Leewenhoek 氏之レヲ見タリシコアリシガ其後マルムステン Malinzen 氏ニ依リ初メテ能ク記載報告セラレタリ而シテ「バランチデューム」ハ原蟲中浸滴蟲ニ屬ス

所在 人ノ腸内ニ寄生シ屢々大腸加答兒及潰瘍性赤痢患者ニ見ル而シテ今日迄北米、比律賓、獨逸、露國、フィンランド、ポチーナ各地ニ見出セラレタリ

形態 大腸「バランチデューム」ハ既ニ肉眼ヲ以テ見ラル、卵圓形體ニシテ長徑七十乃至百ミクロン幅五十乃至七十ミクロンヲ算シ成形成質ノ内外二層明カニ判然タリ體ノ全表面ヨリハ無數ノ短小微細ノ纖毛ヲ生ズ而シテ體ノ狹端ニハ孔口 (Cytostome) アリテ食物ヲ採取シ他端ニハ肛門 (Cytopyge) アリテ消化物ヲ排泄ス又成形成質ニハ通常二個ノ收縮性空泡アリテ屢々血球、澱粉顆粒、脂肪粒等ヲ含ムコアリ、主核ハ卵圓形ニシテ尙ホ別ニ小核即チ第二核アリ

圖八十四百第



ムウデチンラバ腸大

耐久體 圓形ナル被囊ヲ形成シ耐久體トナル其ノ直徑八十乃至百ミクロン大ニシテ往々冷却又ハ乾燥便中ニ見出ス

類似「バランチデューム」左ノ如シ

- 一 小「バララチデウム」*Balanidium minutum* ヤコビー Jacobi 氏ノ發見シタルモノニシテ鶏腸内ニ寄生ス
- 二 「コルボダ・ク・ルス」*Colpoda cucullis* シュルツ Schultze 氏ノ發見ニシテ赤痢患者腸内ヨリ見出セリ
- 三 「チロドン・テンタテユス」*Chilodon dentatus* ギアー Giarat 氏巴里ニ於テ赤痢糞便ヨリ見出セリ
- 四 「ニクトテルス・フアバ」*Nyctohemus faba* ヤコビー Jacobi 及シヤウヂン Schaudinn 氏ガ伯林及ストラスブルグ市ニ見出セルモノナリ

第五編 「クラミドゾア」編 Chlamidozoa

第一章 汎論

Chl: midozoen

定義 微生物ニシテ寧ろ原蟲ニ近キ性質ヲ有シ其ノ細胞内ニ寄生スルヤ其ノ反應產物 Reaktionsprodukte トシテ染色^{クロマチン}質及仁質^{プロトプラズム}様ノ物質ヲ出シ特異ノ包衣^{インスクリプス}ヲ形成シ此ノ包衣内ニ微小體 Initialkörperchen ヲ容レ以テ恰モ外套ヲ纏ヒタルガ如キ觀ヲナスモノアリ一九〇七年獨ノ原蟲學者プロワゼック Prowazek 氏ハ之レヲ細菌ト原蟲トノ中間ニ位スル微生物トナシ「クラミドゾア」Chlamidozoa ナル名稱ヲ付シ以テ細菌及原蟲以外更ニ微生物學ノ一門ヲ樹ツルニ至レリ蓋シ「クラミドゾア」ナル語ハ元ト希臘語^{Χλαμύδης}「ミシ」ヨリ來リタルモノニシテ外套^{マントル} Mantei, Mantei ノ意義ヲ有ス即チ該微生物ハ恰モ外套ニ包マレタルノ狀ヲナスヲ以テナリ。

種類 「クラミドゾア」ト認ムベキ微生物ニシテ從來諸種ノ疾病ニ見出セラレタルモノ少カラズ且ツ種々ノ名稱ヲ付セラレタリ即チ左ノ如シ

- 「トラホーム」……………プロツベック氏小體 Prowazek'sche Körperchen
- 天然痘……………グアムニリー氏小體 Guarnieri'sche Körperchen
- 狂犬病……………ネグリー氏小體 Negri'sche Körperchen
- 猩紅熱……………マロリー氏小體 Mallory'sche Körperchen

- 發疹室扶斯……………リケト及プロワゼック氏小體 Kiketti-Prowazek'sche Körperchen
- 觸接性モルスクム病……………「モルスクム」小體 Malluscumkörperchen
- 蠶黃痘病……………ホルレ氏小體 Halle'sche Körperchen
- 犬瘟熱小體
- 口蹄疫小體
- 鶏虎列刺小體
- 鳥上皮腫小體
- 鯉痘瘡小體
- 魚口唇病小體

所在「トラホーム」天然痘猩紅熱及發疹室扶斯小體ハ好ンデ上皮細胞内ニ寄生シ狂犬病小體ハ腦神經細胞内ニ存在ス。

病原性 上記諸種ノ「クラミドゾア」小體ハ元ヨリ其ノ疾病ニ見ル特異産物ナリト雖之レガ病原性ニ關シテハ猶ホ不明ノ問題ニシテプロワゼック氏ハ左ノ理由ニ依リテ末ダ病原體ト認ムルヲ得ザルモノト做セリ。

第一 天然痘ニ見ル「クラミドゾア」小體ハ「トリプシン」及「ペプシン」消化作用或ハ十乃至二十%食鹽水ニ依リテ殆ド溶解シ更ニ濃厚液トナレバ全ク溶解崩滅スルニ至ル然レモ之レヲ動物ニ接種スレバ依然トシテ發痘シ來ル即チ是レ天然痘病原體ノ猶ホ消滅

セザルノ理ナリ。

第二 天然痘及蠶黃痘病毒ヲ千倍ノ強度ニ稀釋シ鏡檢上其ノ「クラミドゾア」小體ヲ見出セザルモ依然トシテ發痘力並發病力ヲ有ス即チ是レ病原體ノ猶ホ消滅セザルノ理ナリ。

第三 狂犬病ノ「クラミドゾア」即チネグリー氏小體ハ有毒組織ニ存セザルコトアリ或ハ全ク固定毒ニ見出セズ即チ是レ猶ホ未ダ病原ノ意義不明ナリ。

第四 狂犬病毒ヲ強力遠心器ニ掛クレバネグリー氏小體ハ沈澱除去セラル然レモ之レヲ動物ニ接種スレバ依然トシテ發病シ來ル即チ是レ猶ホ未ダ病原ノ意義不明ナリ。

第五 「クラミドゾア」小體ノ形態及構造ハ單純平等無造構ニシテ原蟲ト認ムルニ適セズ。

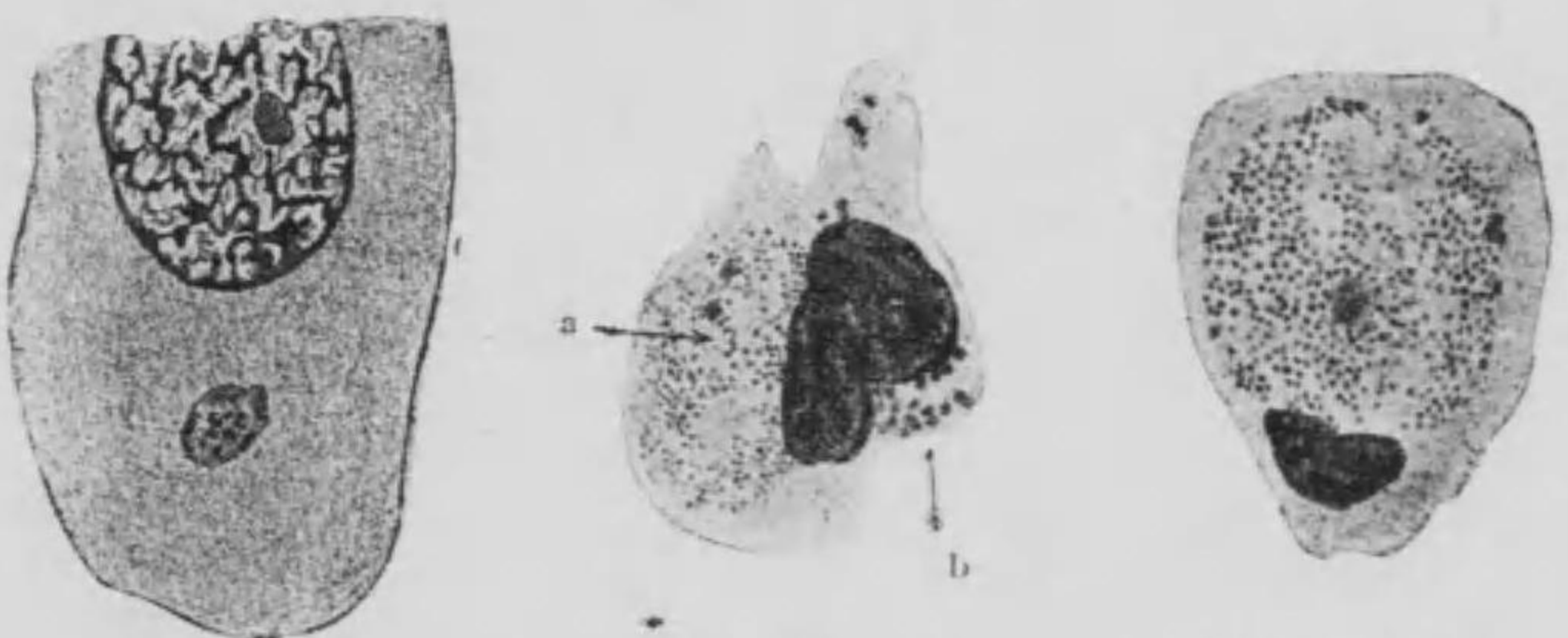
第二章 各論

病原微生物學トシテ今日主要ナル「クラミドゾア」類左ノ如シ。

- 一 プロワゼック氏小體 Prowazek'sche Körperchen
- 「トラホーム」小體 Trachomkörperchen

發見 一九〇七年プロワゼック Prowazek 氏ハ南洋遊學ノ途時ニ於テハルベルステツテ

第四百九十九圖
「ムホラト」小體
(胞細皮上膜結者患)



實充體小體

幼微 a
小體 b

早 期

Halberstädter 氏ト共ニ瓜哇ニ於テ「トラホー」ム患者ノ眼結膜上皮細胞内ニ之レヲ見出シ以テ病原體ナラントセリ。
形態 ギームザ氏液ヲ以テ染色スレバ「トラホーム」結膜上皮細胞内ニ在リテ核ノ附近ニ圓形乃至卵圓形ニシテ青色着色セルノ包衣 Eiuschluss アリ更ニ其内ニ小球狀ニシテ赤色乃至紫紅色ニ着色セル多數ノ微小體 Initialkörperchen ノ包入セラル、ヲ見ルベシ之レ即チ「トラホーム」小體ニシテ其ノ發育時期ノ進ミタルモノハ紅色微小體増殖シ青色包衣ノ消退スルヲ見ル猶ホ更ニ進ムトキハ青色包衣物質ハ游離又ハ吸收セラレ殆ンド赤色微小體ノミ増殖シテ核ヲ一方ニ壓送シ且ツ其ノ微小體ハ恰モ小雙球菌狀ヲ呈ス即チ微小體ハ幼體 Elementarkörperchen ヨリ漸時増大スルモノニシテプロワゼック氏等ハ此ノ赤染セ

ル微小體 Initialkörperchen ヲ以テ「トラホーム」病原體トナシ青染セル物質ヲ細胞ノ反應產物 Reaktionsprodukte der Zelleト見做セリ而シテ又小體ハ屢々痲病菌肺炎球菌、葡萄狀球菌、連鎖狀球菌ト混合存在スルコアリ

所在 「トラホーム」小體ハ「トラホーム」患者ノ初期及加療セサルモノニアリテハ殆ンド毎常ニ之レヲ見出シ且ツ該眼分泌液中ニ往々微小體ノ密集スルヲ見ルコアリ然レモ慢性又ハ加療セルモノニアリテハ檢出困難ナリ而シテ「トラホーム」患者以外ニ見出セズト雖非痲毒性尿道炎並ニ初生兒非痲毒性結膜炎ニ見ルコアリ是レ所謂「包衣性痲毒症」 Eiuschlussmemorie ナリ

培養 未ダ人工的ニ培養スルヲ得ズ

病原性 本微小體ハ未ダ以テ眞ノ「トラホーム」病原體ト斷定シ得ルニ至ラズ今日ハ唯ダ「トラホーム」ニ見ル特異ノ寄生體トシテ認ムルヲ隱當トス

二 グアルニリー氏小體 Guarnieri'sche Körperchen 天然痘毒小體 Vakzinekörperchen

發見 一八九二年グアルニリー (Guarnieri) 氏ハ之レヲ天然痘苗中ニ見出シ Cytomyces variolae vaccina ト命名シ以テ痘原體ナルベシトセリ而シテ此ノ小體モ亦タ將ニ「クラミド」ゾアト見做スベキモノニシテプロワゼック氏更ニ之レガ研究ニ力メタリ

検査法 天然痘胞液或ハ痘苗ヲ家兎ノ角膜ニ接種スルトキハ約四十八時間ノ後角膜上皮細胞ハ既ニ肥厚潤濁ヲ來シ次テ潰瘍トナリ遂ニ八日乃至十日ニ至リ癩痕ヲ形成スルニ至ル即チ接種後隨時此ノ角膜ヲ切除シ次ノツエンケル氏固定液ニテ固定ス。

ツエンケル氏固定液 Zenker'sche Lösung
昇汞 五・〇 硫酸曹達 一・〇 重クロロム酸加里 五・〇
醋酸 五・〇 蒸餾水 一〇〇・〇

其ノ固定シタル後「バアフィン」ニテ固封シ切片標本ヲ製シ。

「サフフランアルコール」液

二日間

「ゲンチアナ水溶液」

三十分間

飽和オランダ液

二十秒

ニテ染色シ後チ脱水透化固封シテ鏡檢ス

形態 角膜接種後二日乃至三日ヲ經テ切片標本ヲ製シテ檢スルニ既ニ接種部上皮細胞内ニ在リテ核ノ附近ニグアルニール氏小體ノ存在ヲ見ルベシ即チ球狀ノ微小體 Initialkörperchenハ卵圓形ノ包衣 Einschlussニ包マルヲ見ルベシ更ニ時ヲ經テ驗スレバ微小體ハ肥大且ツ増殖シ來リ且ツ殊ニ幼稚小體 Elementarkörperchenヲ見ル之ノ幼稚小體ハ細菌濾過器ヲ通過スルモ

第五百十圖

グアルニールス氏小體
(家種接種角膜)



微小體及幼稚小體

ノニシテ共ニ細胞内及細胞外ニアリウオルビノ Volpino 氏之レガ固有運動ヲ見タリ而シテギームザ氏染色法及開視鏡裝置檢査ヲ以テ見出スルヲ得ベシ。
發育 プロワゼック氏ハ本小體發育狀況順序ヲ左ノ如ク觀察セリ。

- 一、無數ノ幼稚小體 Elementarkörperchen 初期及末期ニ見ル。
 - 二、細胞内微小體 Intrazelluläre Initialkörperchen 主ニシテ上皮細胞内ニアリ。
 - 三、中間期 Übergangsstadien 中央ニ位シ周圍青染包衣ニ包マル。
 - 四、種々ノ形狀 verschiedene Formen 大小不同種々ノ形狀ヲ呈ス。
 - 五、細胞内外微生物 Intr- u. Interzelluläre Initialkörperchen 細胞内及細胞外ニアリ。
 - 六、崩潰 Zerfall 微小體分解シテ無數ノ幼稚小體ヲ形成ス。
- 病原性** グアルニールス氏小體ハ他ニ見出セズ殊ニ其ノ幼稚小體ハ細菌濾過器ヲ通過シ之レヲ接種スレバ發痘シ來ル然レモ未ダ以テ之レヲ眞ノ痘原體ト認ムルヲ得ズ即チ今日ニ於テハ本小體ハ天然痘毒ニ依ル細胞特異産生物ナリト見做スヲ順當トス。

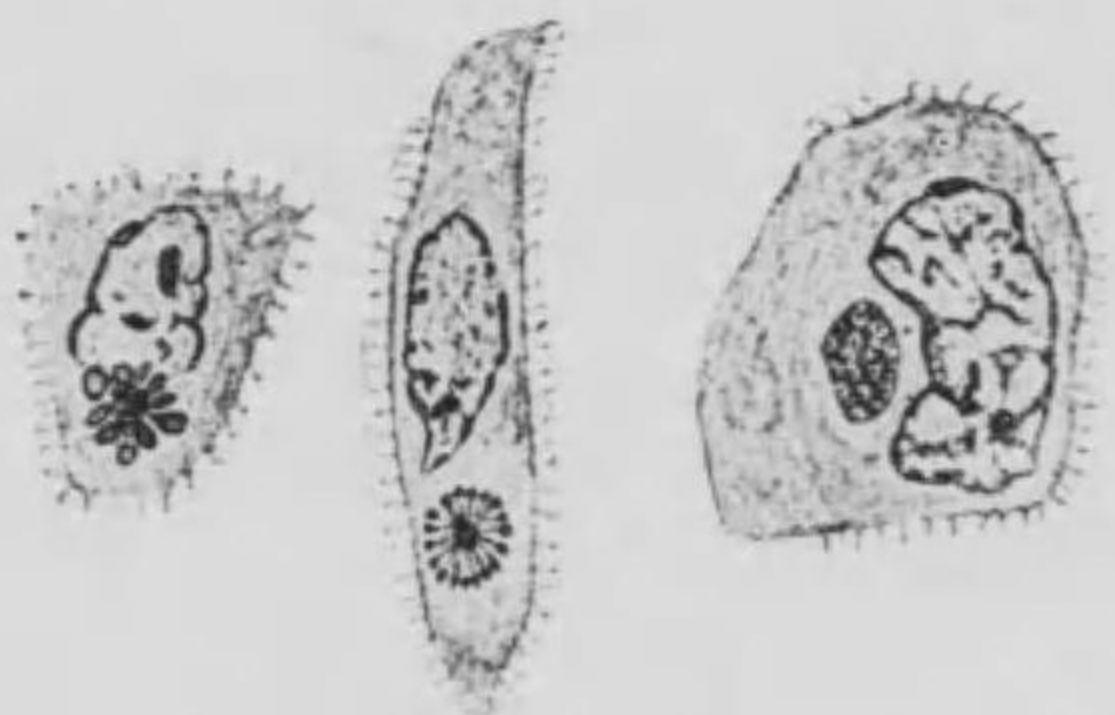
三 マロリー氏小體 Mallory'sche Körperchen

猩紅熱小體 Scharlachkörperchen

マロリー Mallory 氏ハ猩紅熱患者ヨリ初メテ之レヲ見出シ次テデュヴァール Duval 氏ハ猩紅熱患者皮膚發疹中ニモ見出シ得タリ即チマロリー氏小體ハ上皮細胞内ニア

第百五十一圖

マロリ氏小體 (熱程)



リテ球狀又ハ屢々菊花狀 (Chrysanthemenform) ヲ呈シ成長スレバ顆粒狀トナリテ細胞外ニ出ヅルモノアリ而シテ本小體モ亦タ未ダ眞ノ病原體ト認ムルヲ得ズ又一九一二年デーレ Döhle 氏ハ同患者ノ白血球内ニ一種ノ小體ヲ認メデーレ氏小體 Döhle'sche Körperchen ト名ケタリ。

四 子グリー氏小體

Negrisehe Körperchen

狂犬病小體 Lysakkörperchen

一九〇三年子グリー Negrise 氏ガ及狂犬病ノ腦海馬角 Ammonshorn ノ神經細胞ニ見出シタル小體ニシテ爾來狂犬病患者ニモ見出セラルニ至レリ而シテ此ノ小體モ將ニ「グラミドゾア」ト認ムベキモノニシテ今日未ダ其ノ眞ノ病原體トシテ認ムルヲ得ザレモ狂犬病ニ見ル特異產生體ニシテ診斷上ニハ甚ダ意義ヲ故ス故ニ便宜上之レヲ後章狂犬病ノ部ニ述ベントス。

五 リッケット及プロワゼック氏小體

Rickett & Prowazeck'sche Körperchen,

發疹室扶斯小體 Flecktyphuskörperchen

プロワゼック Prowazeck 氏ハ祖國獨逸軍ニ從ヒセルビヤ方面ニ在リテ具サニ同地流行發疹室扶斯病原研究ニ從事シ昨一九一六年コトブス捕虜病院發疹室扶斯患者ヨリ一種ノ「グラミドゾア」體ヲ見出シタリ而シテ其ノ見出セラレタル小體ハ曾テ米ノ「リッケット Rickett 氏」ガ見タリシモノニ似タルヲ以テ今ヤ「リッケットシニア・プロワゼック」キー「Rickett-Prowazecki」ト稱セラル、ニ至レリ又プロワゼック氏ノ下ニ共同研究セルロシヤリマ Kocha-Lima 氏ハ更ニ同小體ヲ發疹室扶斯患者ニ寄着セル虱消化管上皮細胞内ニモ見出シタリ但シ健康人又ハ他ノ患者ニ寄着セルモノニハ一モ見ルヲ得ザリキ。

六 爾他「グラミドゾア」小體

爾他「グラミドゾア」小體トシテ汎論種類(五八二頁)ニ記セルガ如ク犬、鷄、蠶等ニ見ルモノアレドモ未ダ以テ眞ノ病原體ト見做スニハ困難ナルヲ以テ今ハ爰ニ之レヲ省畧セントス。

嗚呼 フロワゼツケ氏 Stanislaus von Prowazek +

スタニスラウス・フォン・フロワゼツケ氏ハ現代原蟲學ノ泰斗ナリ今ヤシャウヂン Schim-
 dim 氏逝キハルトマン Hartmann 氏老ヒラヴエラン Laveran マンソン Manson ロス
 Ross カステラニー Castelnani 等ノ諸氏皆ナ静カナルノ時實ニ氏ハ我ガ病原微生物
 學界唯一ノ原蟲學者ナリキ殊ニ一九〇七年「クラミドゾア」學ナル一門ヲ設ケ細菌
 學及原蟲學ト共ニ不明病原體ノ闡明ヲ企テ、ヨリ我醫學ハ誠ニ氏ニ待ツ極メ
 テ大ナリキ、這般歐洲動亂ヲ來スヤ氏ハ祖國獨逸軍ニ從ヒセルビヤ方面ニ出征シ
 テ偶々發疹室扶斯病原研究ノ好機ニ際會シ昨一九一六年一種ノ「クラミドゾア」體
 ヲ見出セリ然ルニ氏亦タ不幸同病ニ感染シ同年末逝去遂ニ吾人ト幽明境ヲ異ニ
 スルニ至リス嗚呼氏ガ他界ハ實ニ我學ノ一大損失ニ特ニ「クラミドゾア」學ノ前
 途ハ闇夜突如トシテ燈火ヲ消ヒタルガ如シ嗟々嘆カザルヲ得ンヤ悲マザルヲ得
 ンヤ予歐洲ニ在ルヤ一九一四年獨逸ハンブルヒ熱帶病學研究所ニ於テ氏ニ指導
 ヲ受ケタルコアリキ當時氏ハ研究室ニアリテ終日作業ト讀書ニ没頭シ強記博學
 加之人格隱健甚ダ高ク實ニ我ガ意ヲ得タルモノナリキ、曾テハ日本ニモ來遊シタ
 リシコアリ、未ダ四十餘歳ノ壯者ニシテ獨身ナリシコナド思出シテ今ハ唯ダ我ガ
 學ノ爲メニ追悼惹リニ措ク能ハズ且ツハ一度教受ケシ身ノ心ノ哀レ更ニ切ナリ

大正六年六月三日夜

朝 光

獨 Pocken, Blattern
英 Small-pox

第六編 不明病原體 Unbekannte Krankheitsreger

今日諸種疾病中其ノ病毒 Virus ノ性質知ラレタルモノニシテ未ダ其ノ病原體 Erreger
 ノ明ナラザルモノアリ或ハ病毒、病原體共ニ不明ナルモノアリ又ハ豫防及治療ノ實行
 シ得ラル、ニ係ハラズ、猶ホ病原體ヲ見出シ得ラレザルモノアリ即チ是レ皆ナ不明病
 原體 Unbekannte Krankheitsreger, Unknown-agent of Disease ニシテ左ノ如シ。

一 天然痘 Variola

天然痘ノ病原ハ今日全ク不明ナリト雖モ其ノ病毒性質ハ明カニシテ之レヲ接種ス
 レバ發痘シ以テ免疫性トナリ完全ニ本病ヲ豫防スルヲ得ベシ爲メニ今日迄之レガ病
 原體ヲ研究シタルモノ少カラズ。

痘原體 Lockenerreger 天然痘ノ病原體即チ痘原體トシテ從來報告セラレタルモノヲ舉
 グルニ次ノ如シ。

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 一八六八年 | ケーベルス Kéber 氏……點狀分子體 | 一八七八年 | クレイブス Kreybs 氏……小胞體 |
| 一八七一年 | ショウグユー Chauveau 氏……顆粒小體 | 一八八一年 | トーザン Tausant 氏……芽胞菌 |
| 一八七二年 | ワイゲルト Wegert 氏……球狀小體 | 一八八三年 | クイスト Quist 氏……小球菌 |
| 一八七三年 | コーン Cohn 氏痘原小體 | 一八八四年 | バレーギト Haregjit 氏……球菌 |
| | グリュンハーオン Grünhagen 氏……透光體 | 一八八五年 | ヴォイト Voigt 氏……球菌 |
| | | 一八八六年 | カルミカエル Carmichael 氏……連鎖 |

不明病原體 天然痘

如シ。
一、壓力 三百乃至四百氣壓ニ死滅セズ、真空中アリテ細菌ハ死スルモ痘毒ハ障害ヲ受ケズ。
二、寒冷 零下百八十度ニ在リテ數ヶ月間生存ス又、グリセリン痘苗ハ零下十度ニ於テ二年間變化セズ。
三、溫熱 熱ニ耐シテ比較的抵抗力弱シ即チ痘苗ハ六十度ニ於テ一時間内八十度ニテ三十分間ニ其ノ毒性ヲ失フ三十七度孵卵器内ニ在リテ二三日間ニテ失毒ス、十度乃至十五度ニテ二百三日、零下四度ニテ三百六十四日生存セル例ナリ。
四、日光 日光ノ作用ハ著シカラズ其ノ紅、青、黃、綠、紫色ノ光線特ニ認ムルモノナシ。
五、藥品 痘苗ニグリセリンヲ混ズルキハ混入細菌ハ短時日ニテ死滅スルモ毒力變化セズ、クロロフォルム及トルオールハ短時日ノ間ニアリテハ作用セズ、〇・一%昇汞水ハ完全ニ滅殺スルノ力ナキモ五%ニ於テハ一時間ニ死セシム、純酒精、醋酸、安母尼亞ハ障害シ、膽汁、オボニンハ減弱セシメ、トリブシン及ペブシン消化ニ永ク生存シ冷水、アラビヤゴムニハ何等ノ障害ヲ受ケズ。
牛痘 Vaccine 牛ニ發スル痘瘡ニシテ牧牛者等ノ如キハ往々之レニ感染スルコトアリ而シテ牛痘胞漿ヲ人ニ接種スレバ局部ニ發痘ヲ來ス且ツ數代之レヲ人ニ接種スルモ其ノ毒性ニ變化ヲ來スコトナク又能ク其ノ免疫性ヲ附與セシムルヲ得ベシ之レヲ以テ見レ

球菌	一八八七年	モロツタ Morita 氏……球菌	……雙球菌	一八九三年	マレチエン Malejan 氏……球菌
	一八八七年	ガレレ (Gare) 氏……球菌	諸方氏	一八九五年	ステルブルヒ Sternberg 氏……アメリ
	一八八七年	フナイワール Meifer 氏……アメリ	バ様 Amoeba	一八九七年	リード Kead 氏……アメリ
	一八八七年	ロエフ (Loeff) 氏……アメリ	ケント Kent 氏……雙球菌	一八九八年	中西氏
	一八八九年	グリゴリーウ (Grigoriou) 氏……小球菌	フンク Funk 氏……芽胞體	一九〇一年	田中氏……アラスモチム様體
	一八九〇年	ウオイトー (Wohow) 氏……葡萄狀球菌	石神氏……アメリ	一九〇二年	バカ (Baka) 氏……芽胞體
	一八九〇年	混在	コルター (Kortle) 氏……芽胞體	一九〇七年	住血胞子様體、小胞子蟲體
	一八九二年	コペマン・クライン・ケン (Copeman, Klein, Kent) 氏……桿菌	中野氏	一九〇九年	プロカ (Proca) 氏……長線狀菌
	一八九二年	グアル・ニリー (Guarini, Neri) 氏……グアル	ラウイノ子ツチ (Lauino) 氏……連	一九一〇年	鎖狀球菌
	一八九二年	リリー氏小體	カサグランデー (Cassgrandi) 氏……濾過小體	一九一〇年	
	一八九二年	ニコルスキー (Nikolski) 氏……芽胞桿菌			
	一八九二年	マルチン・マリッ (Martin, Marini) 氏……桿菌			
	一八九三年	ベツセル・ベッセル (Besser, Besser) 氏……桿菌			
	一八九三年	ジーゲル (Siegel) 氏……桿菌			
	一八九三年	ブッテルサック (Buttersack) 氏……芽胞體			
	一八九三年	ルエト及エノツホ (Luetke & Enoch) 氏			

其他 パッシェン Paschen、コンシルマン Cuncilman、リヒテリ Lichteil 氏等ノ小體アレモ未ダ以テ眞ノ病原體ト認ムルヲ得ズ學者宜ロシク之レガ發見ニ力メサルベカラズ。
天然痘毒 Variolavirus 天然痘毒ヲ含ム痘胞汁並ニ痘苗ハ共ニ人及動物(牛、家兔等)ニ接種スレバ發痘シ來ル且ツ細菌濾過器ヲ通過スルノ性アリ而シテ其ノ痘毒理化學的性狀左ノ

天然痘毒ト牛痘毒トハ同一種ノモノニシテ即チ牛痘ハ牛體內ニ於テ天然痘ノ減毒シタルモノト見做スヲ得ベシ既ニフ・シエル *Engler* 氏ノ如キハ天然痘ノ胞漿ヲ牛體ニ三傳シタル後チ人ニ接種シタルニ唯ダ局部ノ發痘ヲ來シタルノミニシテ即チ既ニ天然痘毒ノ減毒シテ牛痘毒ニ變ジタルヲ實驗セリ則チ是レ牛痘苗接種ガ能ク天然痘ヲ豫防シ得ルノ理ナリ。

動物試験 天然痘毒ヲ動物ニ接種スルモ未ダ人ニ見ルガ如キ症狀ヲ呈セズ然レモ若シ天然痘毒或ハ牛痘毒ヲ家兔ノ皮膚ニ接種スレバ三日乃至五日ヲ經テ接種局部ニ水痘ヲ發生ス之レ即チ家兔痘 *Kaninchenpocken* ニメバイフェル及ウ・イト *Yeffler* 及 *Voit* 氏ハ家兔痘ヲ人體ニ接種スレバ反應微弱ニシテ經過緩慢ナリ且ツ牛痘苗ニ比スレバ其ノ免疫度弱キヲ見タリ又フ・イト *Voit* ハ牛痘苗ノ發痘力減弱シタル場合ニハ之レヲ家兔ニ接種スレバ其ノ毒力増強スルヲ實驗シ以テ之レヲ行ヒツ、アリ又一九一三年野口氏ハ痘苗ヲ家兔ノ睾丸ニ接種スレバ雜菌ハ死滅シ唯ダ痘毒ノミ存スルヲ以テ之レヲ痘苗トナスベシトナセリ。

免疫性 一度ビ天然痘ニ感染シタルモノハ再ビ之レニ感染スルコトナク又種痘ヲ受ケタルモノハ能ク五年乃至十年ノ間感染スルコトナシ是レ免疫性トナルタルモノニシテ以テ本病ハ確實ニ豫防シ得ラル、ノ理ナリ且ツ人痘ヲ以テ牛痘ヲ起サシメ其減毒セル牛痘苗ヲ以テ能ク人ヲ免疫性 *Variolavaccinimmunität* トナサシムルヲ得ベシ而シテ免疫

血清中ニハ痘毒ヲ中和スルモノアリ且ツ免疫體ハ母體ヨリ胎兒ニ移行シ或ハ補體結合試驗ニ依リ痘苗ト免疫血清ト結合スルヲ見ル又天然痘免疫血清ハ沈降反應ヲ呈スルコトアリ其他患者赤血球ニ溶解現象ヲ見タルモノアリ。

種痘法 Vaccination

一、人痘接種法 Variolation 古來ヨリ廣ク印度並ニ支那等ニ行ハレタルノ法ニシテ痘漿又ハ痂皮ヲ直ニ鼻腔ニ附着セシメ以テ發病セシムルニアリ然レモ強毒ニシテ往々眞痘ヲ發シ危險症狀ニ陥リ又ハ諸病ヲ傳播スルノ恐アリ到底末開時代ノ方法ニ過ギズ今日全ク用ラレザルニ至レリ。

二、牛痘接種法 Vaccination 之レ一七九七年英ノエドワード・ジエンナー *Edward Jenner* 氏ノ發見ニシテ爾來蠻地ヲ除クノ外殆ンド痘瘡ノ跡ヲ絶ツニ至レリ實ニ千古ノ偉業ト言ハザルベカラズ洵ニ近世免疫學ノ門戸ハ氏ニ依リテ開カレタルモノト云フベシ而シテ今日一般ニ行ハル種痘ハ即チ皆ナ此ノ牛痘接種法ナリトス。

痘苗 Vaccine-lympe, Vaccine-lympe 種痘法ニ用ラル痘苗ノ種類左ノ如シ。
一、人化牛痘苗 humanisierte Kuhlympe 往時用ヒタルモノニシテ即チ牛痘ヲ小兒ノ皮膚ニ接種シ其ノ發痘セル痘漿ヲ以テ種痘スルノ法ナリ然レモ是レ微毒結核皮膚病等ヲ傳播スルノ危險アリ遂ニ一八六年以來各國ニ於テ廢セラレ、ニ至レリ。
二、天然牛痘苗 Originale Kuhlympe 天然ニ牛ノ乳房ニ發生セル牛痘ノ痘漿ヲ用ユルモノ

ナレドモ實際ニ廣ク行ハレズ。

三 牛化牛痘苗 *Animale Kuhlymphi* 天然ニ牛ニ發生セル牛痘ノ痘漿ヲ更ニ健康牛ニ接種シ其ノ發生シタル痘漿ヲ採取スルモノニシテ實ニ我ガ梅野氏能ク之レガ改良ニ力メタリ即チ牛痘毒ハ數回牛體ヲ通過スレバ毒力頓ニ減弱スルヲ以テ時々人體ニ接種シ其毒力ヲ高メサルベカラザルノ煩アリ即チ梅野氏ハ之レヲ改良セント企テ牛痘毒ヲ一定度ニ稀釋シ膿體ニ接種スレバ毒力減弱セザルノミナラズ却テ強増スルモノナルヲ發見シ以テ人體接種ノ要ナキニ至レリ。

四 復種牛痘苗 *Retrovaccinationslymphi* 人化牛痘苗即チ初メ牛痘ヲ人ニ接種シ其ノ發痘漿液ヲ更ニ再ビ牛ニ接種シテ發痘セシメタルモノナリ現今各國ノ用ユラルモノ即チ之レナリ。

五 家兔痘苗 *Lapinase* 牛痘ヲ家兔ノ背又ハ腹部ノ皮膚ニ接種スレバ三日乃至五日後ニ水痘ヲ生ズ即チ之レヲ磨碎シタルモノニシテカルメット及グエリン *Calmette & Guerin* 氏初メテ之レヲ行ヘリ。

痘苗製法

痘苗ノ製法ハ各國ニ於テ皆ナ多少ノ差アリ殊ニ製苗器械ノ如キハ各種特異ノ考案アリ又注意スベキ種々ノ苦心アリ而シテ一般痘苗ヲ製スルノ法左ノ如シ。
通常一歳乃至四歳ノ犢牛 *Calb, Calif* ヲ用ユルモ猶ホ一歳以内ナル乳犢牛 *Saugkälber* ヲ

以テスルヲ良トス即チ之レヲ接種臺 *Impfisch* ニ固定仰臥セシメ腹部ヲ廣ク丁寧ニ剃毛シ微温石鹼水ニテ洗ヒアルコールニテ消毒シ更ニ微温滅菌水ニテ拭ヒタル後接種刀 *Implanzette* (之レニ種々ノ器具アリ梅野氏) ヲ以テ淺ク皮膚ヲ亂切シ之レニ原苗 *Stammlymphi* ヲ塗布スルニアリ次テ消毒ガ―ゼヲ當テ廣キ綿帶即チ腹掛ケヲ施シ牛舎ニ靜養セシムベシ然ルルハ既ニ二十四時間後ヲ經レバ接種部ノ週縁ハ狭キ紅輪ヲ呈シ來リ四十八時間後ニハ稍ヤ隆起發赤シ次テ痘胞 *Vaccinbläschen* ヲ形成シ五乃在六日後ニハ成熟發痘スルニ至ル依テ即チ第四日又ハ第五日日ニ於テ痘胞ヨリ採苗 *Ahnimpfung* スルニアリ即チ再ビ固定臺ニ仰臥セシメ微温石鹼水アルコール微温滅菌水等ヲ以テ能ク消毒シタル後チ大銳匙 (種々ノ器具アリ) ヲ以テ強ク速ニ痘胞全部ヲ爬取シ之レヲ滅菌硝子皿ニ採リグリセリンヲ以テ約三倍ニ稀釋シ痘苗磨碎器 *Lymphmühle* ニテ丁寧ニ研磨シ強心遠心器ニ掛ケ其ノ沈澱ヲ去リタルモノ即チ原料 *Rohstoff* ナリ是ノ原料中ニハ未ダ多數ノ細菌混在スルヲ以テ〇・五%ノ比ニ石炭酸ヲ混ジ或ハグリセリンヲ混セルモノヲ三乃至四週間水室ニ貯藏シ又ハ硫酸乾燥器内ニテ乾燥セシメ以テ其ノ殺菌處置シタル後毛細管試験管ニ吸取シ其ノ兩端ヲ溶封シタルモノ即チ是レ痘苗ナリ。

動物天然痘 天然痘ハ人ノ外尙ホ他ノ動物ニモ之レヲ見ル即チ左ノ如シ

一 牛痘 *Kuhpocken, Cow-pox*

二 羊痘 *Schafpocken, Sheep-pox*

- 三馬痘 Pferdpoeken, Horse-pox
- 四豚痘 Schweinepocken, Pig-pox
- 五山羊痘 Ziegenpocken, Goat-pox
- 類似天然痘病 天然痘ニ類似セル疾病左ノ如シ
 - 一サモア痘 Samoa-pocken ブロワゼック Irowazek 氏ガ南洋サモア島ニ見タルモノニシテ症狀類似スルモ眞痘ニアラズ
 - 二白痘 Weisse Pocken 南米ブラジール國ニ見ルモノニシテ土人之レヲ「アラストリム」Arstim トイフ
 - 三駱駝痘 Samirapocken 初生駱駝ニ見ル痘瘡様疾病ニシテブレイン Plahn 氏之レヲ見タリ

二 狂犬病 Hydrophobia

Lyssa, Tollwut, Wutkrankheit, Wasserseuche,
Hundwut 英 Rabies, Canine madness, 佛 Rage, 伊 Rabbia

狂犬病ハ元來犬ノ疾病ニシテ之ノ病犬ノ咬咀ニ依リ偶々人ニ發病スルモノナリ其他猫、牛、羊、豚等ニモ感染ス故ニ亦此等ノ病獸咬咀ニ依リテモ人ハ狂犬病ヲ發ス而シテ本病ハ各國ニ於テ甚ダ恐怖セラル、疾患ニシテ我日本ニ於テモ時々之ノ發生ヲ見ル

病原體 本病ノ病原ハ全ク不明ニシテ從來報セラレタルモノ種々アリト雖未ダ眞ノ病原體トナシ得ラル、モノナシ然レモネグリー氏小體ハ本病ニ見ル特異產物トシテ其ノ診斷的價値ヲ有スルヤ大ナリ但シ未ダ病原體ト認ムルヲ得ズ

ネグリー氏小體 Negri'sche Körperchen, Negri's body

(發見) 一九〇三年伊太利ノネグリー Negri 氏ガ狂犬病患者及狂犬ノ腦質殊ニ海馬角部ノ神經細胞内ニ多數ニ發見シタル小體ニシテ之レヲ同年三月二十七日同國バグリア市内外科學會 Societa Medico-Chirurgica ニ於テ供覽報告ヲナセリ而シテ後年ブロワゼック Irowazek 氏ハ之レヲ「クラミドゾア」類ニ編入セリ

(所在) 殆ンド常ニ狂犬病患者及狂犬ノ腦神經細胞内ニ在リテ殊ニ海馬角ニ最も多ク其他小腦及腦皮質ニ存在ス、健康人及動物ニハ全ク見出スルコトナシ即チ本病固有ノ產物ナリトス

(形態) ネグリー小體ハ神經細胞内ニ在リテ核ノ附近又ハ核内ニ侵入シテ存在シ圓形卵圓形又ハ多角形ヲ呈ス而シテ其大サハ種々ニシテ直徑一乃至二十七ミクロンノ間ニアリ、犬ニハ通常直徑四乃至十ミクロンノモノ多ク、家兎ニハ三乃至五ミクロン又其ノ固定毒ニハ最小ナルヲ見ルネグリー氏ハ次ノ如キ長徑ヲ以テ其ノ大小ヲ定メタリ

小形 一乃至五ミ 中形 十乃至十五ミ 大形 二十二乃至二十三ミ(橫徑六・五ミ)
最大形 二十七ミ(橫徑五ミ)

第百五十二號
ネレング氏染色小體
(法體)



(染色狀況) マン氏又ハレンツ氏染色法ヲ以テスルトキハ細胞及核ハ青色ヲ呈シテネグリー氏小體ハ蔷薇紅色ニ着色シテ微細球狀空胞顆粒狀構造ヲ呈ス而シテネグリー氏ハ其ノ球體ニ大小ノ區別ヲナシ大内球體 (Grosse Innerform) ハ卵圓乃至長圓形ニシテ光線ヲ屈折セサルモ更ニ微細顆粒狀構造ヲ呈シ小内球體 (Kleine Innerform) ハ小圓形ニシテ強ク光線ヲ屈折ス且ツ其ノ小ナルハ恰モ球菌ヲ見ルガ如シ

(染色方法)

●切片製法

腦海馬角部ヲ二乃三密迷ノ重サニ切りアセトン中ニ入レ三十七度ニ於テ一時間固定シタル後チ溶解點五十五度乃至五十八度ノパラフィン中ニ三十分間入レ次テ固封ニ乃至三々重サノ切片ヲ製シ之ヲ微温水ニテ展伸シ載物硝子板上ニ載セ然ル後チ次ノ如キマン氏又ハレンツ氏染色法ヲ行ヒ以テ鏡檢スルニアリ

一、マン氏染色法 Mann'sche Methode

次ノマン氏液ニテ十五秒乃至四分間染色スベシ。

一%「メチーレン」青水液

三五〇

一%「エオシン」水液

三五〇

蒸餾水

一〇〇〇

次テ水洗シ無水「アルコール」ニテ洗ヒ更ニ次液中ニ約二十秒入ル。

無水「アルコール」 三〇・〇 一%苛性加里「アルコール」 五滴

次テ無水「アルコール」ニテ洗ヒ更ニ水ニテ洗ヒ稀釋醋酸水ニ二分間浸シタル後チ能ク水洗シ吸水透化固封シ以テ鏡檢スルニアリ。

二、レンツ氏法 Lentz'sche Methode

次液ニテ一分間染色ス。

「エオミン」(Eosin extra II, Haechst) 〇・五 六十%「アルコール」 一〇〇〇

水洗シタル後更ニ次液ニテ一分間染色ス。

「メチーレン」青飽和酒精液 (Methylenblau B, Patent Haechst) 三〇・〇 〇・〇一%苛性加里液 一六〇・〇

水洗乾燥シタル後次液中ニ稀赤色ヲ呈スル迄漬ケ。

無水「アルコール」 三〇・〇 一%苛性加里「アルコール」 五滴

次テ更ニ次液ニテ青色ノ消ユル迄漬ケ。

無水「アルコール」 三〇・〇 五十%醋酸水 一滴

次テ無水「アルコール」ニテ洗ヒ「キシロイル」透化「バルサム」ニ封シテ檢ス。

着色狀況 神經組織質ハ微赤色、細胞體ハ稀青色、核ハ暗青色、赤血球ハ朱紅色、ネグリー氏小體ハ蔷薇紅色同小體内球體ハ青色ニ着色ス。

●塗抹標本 腦ノ塗抹標本ヲ製シマン氏又ハレンツ氏染色法ヲ行フモ亦タ能クネグリー氏小體ヲ見出スルヲ得ベシ。

診断的價値 子グリー氏小體ハ狂犬病ニ見ル固有ノモノナルヲ以テ診斷上甚ダ有益ナリ故ニ狂犬病ニ疑ハシキ狂犬アレバ直ニ之レヲ撲殺シ先ヅネグリー氏小體ノ有無ヲ檢シ之レガ早斷ヲ定ムベシ其ノ動物試験ニ依リ三週間後ニアラザレバ診斷シ得サルモノニ比シテ其價値甚ダ大ナリ。

本態 子グリー氏小體ノ本態ハ不明ナリ未ダ以テ狂犬病原體トナスヲ得ズ蓋シ狂犬病動物ノ脊髓ハ子グリー氏小體ナクシテ猶ホ能ク動物ニ發病セシメ得ルヲ以テナリ即チ本小體ハ狂犬病毒ノ刺戟ニ依リテ生シタル神經細胞ノ固有變性物質ト見做スヲ隱當トス。

狂犬病毒 *Lysavirus* 狂犬病原體ハ未ダ不明ナリト雖之レガ病毒ノ一般性質ハ稍ヤ明ニスルヲ得タリ即チ狂犬病毒ハ細菌濾器ヲ通過スル物質ニシテ左ノ如シ。

(所在) 狂犬病毒ハネグリー氏小體ノ存在ニ關係ナク其所在ハ主トシテ神經中樞ニアリテ腦ノ灰白質ニアリ殊ニ前頂葉ニ最も多クシテ後方ニ至ルニ從テ減弱ス海馬角、四丘體、嗅葉及腦橋等ニハ甚ダ少ナシ又小腦ニモ多カラズ末梢神經ニ見ルトアルモ毎常

ナラズ其ノ他唾液腺ニ存在スルイ氏ノカード *Roux & NoCARD* 氏ノ動物試験ニ依レバ發病ニ先チ既ニ一日乃至三日前ニ唾液中ニ狂犬病毒ノ存在ヲ見タリ此レ狂犬ノ咬傷ヨリ唾液腺中ノ病毒侵入シテ發病ヲ來スノ理ナリ其他血液、乳腺、涙腺、水晶體、淋巴液、精液尿中等ニモ存在ヲ認ムルコトアリ。

(抵抗力) 狂犬病毒ノ抵抗力ハ甚ダ強大ニシテガルチール *Collin* 氏ハ狂犬腦ヲ埋葬シ其ノ四十四日ノ後猶ホ接種シタルニ腐敗シタルニ係ラズ發病力アルヲ實驗セリ又之レヲ零下四度ニ貯フレバ一年乃至二年ノ間變毒セズ日光ハ直ニ毒性ヲ消失セシム乾燥(硫酸乾)スレバ漸ヤ十日乃至十五日後ヨリ減毒スルヲ見ル真空内ニ於テ開處ニ保存スレバ二十三日ニテ二十八日乃至三十日三十五日ニテ二十日乃至二十二日、四十五度

ニテ二十四時間、五十度ニテ一時間、五十八度ニシテ三十分間、六十度ニテ速ニ其ノ毒性ヲ失フ、〇・一%昇汞水ハ二三時間、一%石炭酸ハ二三時間、五%石炭酸、一%クレオリン、十%硫酸銅水、五%サルチル酸、七十%アルコール等ハ二十四時間、フェルマリン、瓦斯ハ四十乃至四十五分後ニ至リテ減毒セシム、グリセリンハ最も貯藏ニ適シ狂犬病ハ之ノ中ニ在リテ半年乃至一年其毒性ヲ減ゼズ。

動物試験 狂犬病ニ對スル感受動物ハ殆ンド多クノ哺乳動物ニシテ殊ニ犬ハ最も過敏ナリ其他家兎、猫、馬、狼、豚、牛、山羊等ニ感染ス而シテ通常家兎ヲ以テ試験動物トナス。

一 硬腦膜下接種法 *Pasteur* 氏ノ法ハ病犬ノ腦ヲ切挫シ其ノ約小豆大ヲ

食鹽水五〇ニテ乳鉢ニテ乳劑トナシ其ノ一ヲ注射器ニ入レ之レヲ家兎ノ顛頂部眼ト耳ト間ニ於テ縱線ニ近ク皮膚ヲ切開シ骨膜ヲ剝離シ頭骨穿孔術ヲ行ヒタル後硬腦膜下ニ乳劑ヲ注入スルニアリ次テ皮膚ヲ縫合シテコロヂーユムニテ密封ス更ニ便利ナルハ押田氏腦底接種法ニシテ押田氏器ニ固定シ家兎ノ眼ヲ脱臼セシメ其ノ内眥部ヲアコルールニテ消毒シタル後注射器長針ヲ少シク内方ニ向テ殆ンド水平ニ持シ視神經孔ニ向ツテ刺入シ更ニ深ク腦底ニ送り以テ狂犬腦乳劑〇一乃至〇二ヲ注入スルニアリ然ルルハ通常二乃至三週間ノ潜伏期ヲ經テ發病シ來リ先ヅ後肢麻痺シテ歩行困難踏躑トナリ次テ興奮期ニ進ミ不安トナリ且ツ下顎ノ痙攣ヲ來シ漸次麻痺症狀増進シ前肢モ麻痺ヲ來シ遂ニ通常發病後四五日ニシテ斃ル。

二、腦内、脊椎内、眼床内、筋肉内注射ヲ行フモ發病シ來ル。

狂犬病ノ診斷 狂犬病ノ診斷ハ其ノ特異ノ症狀ニ依リテ臨床的診斷容易ナリト雖加害獸ガ果シテ狂犬ナリヤ否ヤヲ定ムルハ實際上ノ問題ナリ即チ之レガ診斷法左ノ如シ。

一、咬傷シタル犬ハ必ズ直ニ生ケ捕リシテ嚴重ニ鐵柵内ニ入レ其ノ狂犬症狀ヲ觀察スベシ遲クモ七日以内ニ診定スベク若シ七日以上ヲ經テモ症狀ナクレバ狂犬ニアラザリシモノト疑フヲ得ベシ。

二、前記症狀觀察中ニ斃死スレバ直ニ其ノ腦ヲ出シ腦小片殊ニ海馬角部ヨリ塗抹標本

ニ製シマン氏又ハレンツ氏染色液ヲ以テネグリー氏小體ノ有無ヲ檢スベシ。

三、同斃死病犬ノ腦乳劑ヲ製シ家兎ノ腦底又ハ硬腦膜下ニ注射シ以テ其ノ發病スルヤ否ヤヲ待ツベシ。

又若シ前記七日以内ニ發病セズ其ノ疑フベキモノハ之レヲ撲殺シテネグリー氏小體検査及家兎接種試驗ヲ行フベシ。

狂犬病ノ豫防法 *Wutschutzimpfung, Antirabies-inoculation* 狂犬病ヲ豫防スルノ法ハ狂犬並ニ

狂獸ヲ撲殺シ且ツ其ノ流行ヲ防グ爲メニ犬取締等ヲ發布スルハ勿論ナリト雖犬ノ咬傷ヲ受ケタルキハ直ニ其ノ發病セザルニ先チ之レガ豫防接種法ヲ行フヲ堅要トナス即チ其ノ狂犬病豫防接種法左ノ如シ。

一、パストユール氏接種法 *Pasteur'sche Impfung, Pasteur's Inoculation*

(發見) 一八八三年佛ノパストユール *Pasteur* 氏ハ狂犬病豫防接種ヲ發見シ今ニ猶ホ此ノ法確實ニ行ハレ廣ク各國ノ用ユルトコロナリ實ニゼンナー氏ノ種痘法ト並ンデ我が醫學ノ偉業ト云フベシ即チ氏ハ之レヲ同年十二月六日丁抹國コーペンハーゲン市ニ開ケル學會ニ初メテ發表シ更ニ翌年二月二十四日巴里ニ於ケル佛國學士院會ニ其詳細ヲ公ニセリ。

(固定毒) *Virus fixe, fixed Virus* パストユール氏ハ狂犬ノ腦ヲ家兎腦膜下ニ接種スレバ初

メハ第十六日ノ潜伏期ヲ經テ發病ス然ルニ此ノ家兎腦ヲ第二ノ健康家兎ニ接種スレ

バ潜伏期短縮シ更ニ反復シテ十數回家兎ヨリ家兎ニ接種通過スルルハ遂ニ潜伏期益々短縮シテ僅カニ七日ノ後ニ發病スルニ至ル即チ之ノ潜伏期七日ヲ極度トシタル狂犬毒ヲ固定毒 Virus fixe ト名ケタリ

(街上毒) Virus des rues, Strassenvirus, Street virus 狂犬ノ腦ニアル病毒ヲ街上毒ト云フ

(豫防液) Lysavacine, Rabievaccine

バストユール氏ハ固定毒ニテ斃タル家兎ノ脊髓ヲ出シテ苛性加里ヲ入レタル瓶内ニ懸垂シタルニ其乾燥スルニ從ヒ漸次毒性減弱スルニ至リ其乾燥第三日後ノモノハ毒性弱クシテ潜伏期長ク第五日以後ノモノニ至リテハ全ク無毒トナル之レヲ人體ニ接種スルモ固定毒ハ發病ヲ來サズシテ街上毒ハ家兎依リテ其ノ毒性ヲ變化スルヲ見タリ即チ氏ハ之ノ理由ヨリシテ無毒又ハ減毒ノ狂犬通過ニ病毒ヲ接種液トナシ次テ速ニ免疫ヲ發セシメ其ノ潜伏期中ニ於テ狂犬病ヲ未發ニ防ガントシタリ即チ其ノ豫防接種法ハ減毒生活病原體ヲ注射スルノ法ナリ

(豫防接種液製法)

固定毒ヲ家兎腦底ニ接種シ斃死スレバ必ズ直ニ其ノ脊髓ヲ出シ(切開スルコトハ押田氏式ニ依リ脊髓ノ上下兩端即チ頸部及腰部ヲ骨剪刀ニテ切斷シ腰部ヨリ脊推管内ニ滅菌線ヲ纏ヘル金屬鉢ヲ挿入シ徐々ニ頸部ニ向テ壓出スレバ脊髓ハ容易ニ外出ス依テ之レヲ十二片ニ切り苛性加里ヲ入レタル瓶内ニ懸垂シテ乾燥セシメ次デ其ノ第三日後ヨリ追次第十四日ニ至ルノ間日々一片づ、純グリセリンニ入レ以テ十二種ヲ製

シ置キ用時ニ臨ンデ其ノ一片ノ長サ一仙迷ニ對シ食鹽水五・〇ヲ加ヘテ乳鉢内ニテ磨糜シ乳劑ヲ製ス之レ即チ接種液ニシテ其ノ一回量二・〇ヲ皮下ニ注射スルニアリ而シテ其ノ第一日乾燥ノモノヲ第一日苗第五日乾燥ノモノヲ第五日苗ト呼ビ其他ノモノ亦タ此レニ準シテ稱スベシ

(注射方法) バストユール氏接種法ハ肩胛間部又ハ下腹部ノ皮下ニ注射シ十五日間毎日二・〇づ、ヲ用ユベシ其法左ノ如シ

バストユール氏原法 (第一日ヨリ第五日ノ間ハ一日二回午前午後ニ注射ス)

注射日	第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	第六日	第七日	第八日	第九日	第十日	第十一日	第十二日	第十三日	第十四日	第十五日
接種量	午後13 午前14	11	12	9	10	8	7	6	6	5	5	4	3	5	4

此ノ他今日各接種所ニ於テハ其ノ用量及時日ヲ多少改メテ行ヒツ、アリト雖皆ナ此ノ原法ヲ基礎トナシタルモノナリ

ニヘグエス氏法 Hügessche Methode 乾燥セザル新鮮ナル脊髓ヲ直ニ食鹽水ニテ乳劑トナシテ行フノ法ナリ

三共働接種法 Simultannethode バーベス Rabes 氏ハ第一日目ニ減毒苗第二日目ニ新鮮脊髓苗次テ加熱處置セル強毒苗終リニ狂犬毒免疫血清ヲ注射スルノ法ヲ行ヘタリ

豫防接種價值 狂犬病豫防接種ノ價值ハ極メテ大ナリ之レヲ受ケザルモノ、發病死
亡數ハ十乃至十二%ナルニ比シ完全豫防接種ヲ受ケタルモノハ發病死死亡數僅カニ〇・
三乃至〇・五%ナルヲ以テ其一般ヲ知ルベシ。

今一、二海外狂犬病豫防接種所ノ成績ヲ舉クルニ左ノ如シ。
佛國バストユール研究所成績

年	次	接 種 人 員	死 亡 數	死 亡 %
一九〇〇年	一	一四二〇	四	〇・二八
一九〇一年	一	一三二一	五	〇・三八
一九〇二年	一	一〇〇五	二	〇・一八
一九〇三年	一	六二八	二	〇・三二
一九〇四年	一	七五五	三	〇・三九
一九〇五年	一	七二二	三	〇・四一
一九〇六年	一	七七二	一	〇・一三
一九〇七年	一	七八六	三	〇・三九
一九〇八年	一	五二四	一	〇・一九
一九〇九年	一	四六八	一	〇・二一
一九一〇年	一	四〇一	〇	〇
一九一一年	一	三四二	〇	〇

獨逸伯林傳染病研究所

年	次	接 種 人 員	死 亡 數	死 亡 %
一八九八年	一	一三七	〇	〇
一八九九年	一	三八四	一	〇・二七
一九〇〇年	一	三三二	二	〇・六
一九〇一年	一	二三〇	三	〇・八七

更ニレムリングル Remlinger 氏ガ集メタル各國ニ於ケル成績中ヨリ其主要ナルモ
ノヲ上ゲルニ左ノ如シ。

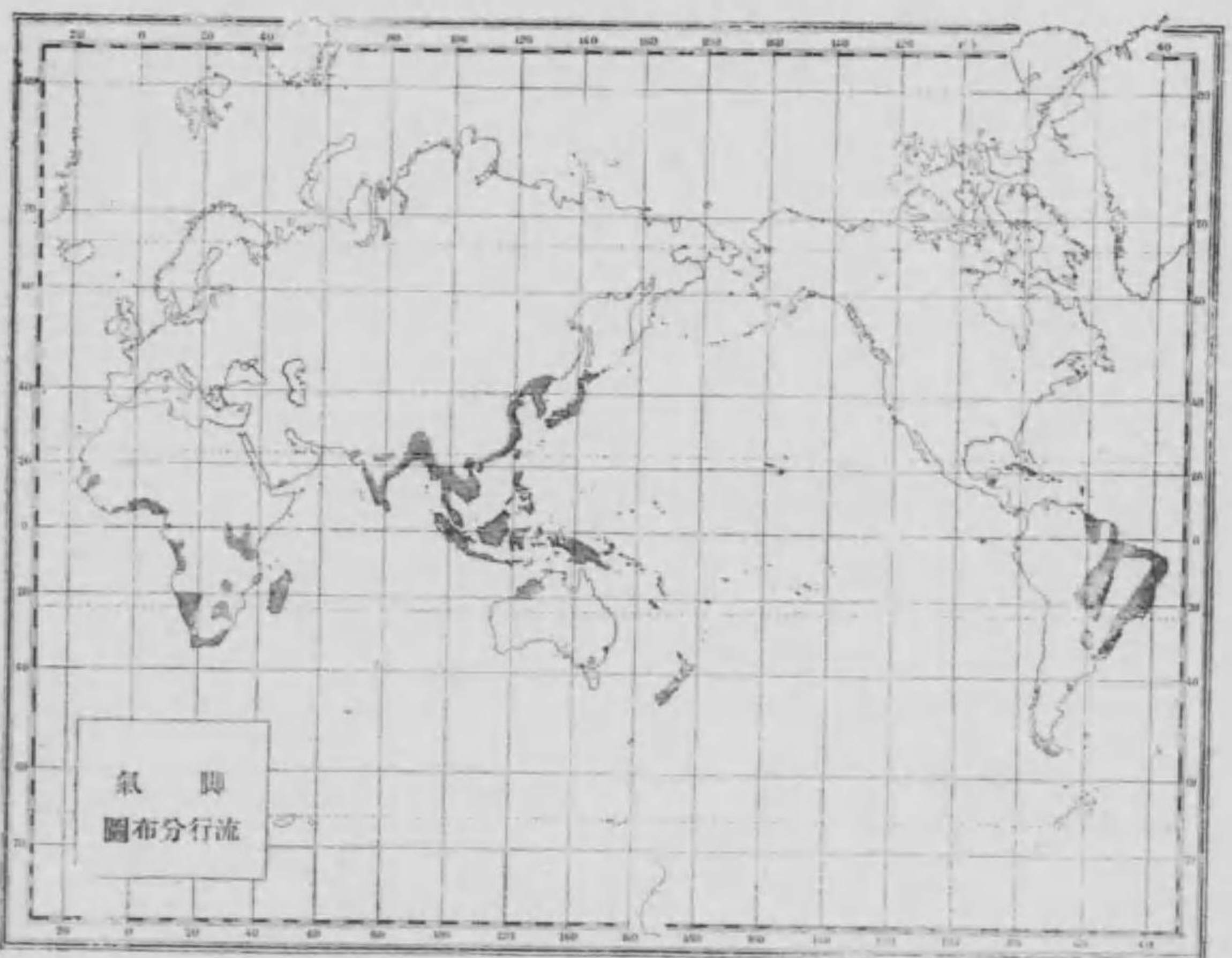
場 數	年	次	接 種 人 員	死 亡 數	死 亡 %
巴里	一八八六—一九〇五年	一	二九九七三	一二九	〇・四一
伯林	一九〇六—一九〇七年	一	三二一	三	〇・九九
維納	一八九二—一九〇三年	一	一九三七	一三	〇・六八
羅馬	一八八九—一九〇二年	一	一九四〇	七	〇・三七
露都	一九〇〇年	一	五九二	一	〇・一六
紐約	一八九〇—一九〇一年	一	一六〇八	一〇	〇・六二

三 脚氣 Malaria

脚氣ハ日本ニ於テ最モ廣ク知ラレタル疾病ニシテ隨テ諸説紛々此レガ研究甚ダカメラレタリ然レモ今日其ノ病原未ダ不明ニシテ殆ンド津涯ヲ尋ヌルニ苦ム而モ本病ノ流行地圖ヲ畫ケバ實ニ上圖ノ如クニシテ我日本ハ全ク脚氣國ニ化セリト云フベシ且ツ日本以外本病ヲ見ルハ唯ダ未開ノ地方ノミ宜ロシク吾人ハ之レガ眞因ヲ明ニセザルベカラズ而シテ本病ハ種々ノ名稱ニ依リテ呼バルヲ左ノ如シ。

第五百三十三圖

脚氣病ノ分布狀況



beriberi (獨英佛) Barberi, Barbers (英) Barbiers (佛) Leempeo (瓜哇) Pantiakit niloe 又 siqo, Bimas, Aycoi (パソカ) Pantiakit papoia (ニューギニア沿岸) Kaki lem but (マレー島) Maladie des sucres (佛領安南) Hinclazon de los negrosy chinos (キューバ島) Penneiras 又 Inclacao (ブラジル) 國其他 Synclonus Beriberia (マソソク) Hydrops asthmaticus (ローヂヤス) Myelopathia tropica scorbutica (オベルベーク) Paraplegia nephitica (シラウグ) Scrophthosis pernicioso endemica (ウエルニツヒ) Neuritis multiplex endemica (シヨホベ) Panneuritis endemica (ベルク)

四 黃熱 Gelbfieber, yellow-fever

黃熱病ハ日本ニ見ザル疾患ナリト雖之レガ病毒ヲ傳搬スル蚊屬ハ日本ニ存在ス而シテ本病ノ原因ハ未ダ不明ニシテ今日迄報告セラレタルモノ皆ナ非ナリ。

黃熱蚊 Stegomyia fasciata 北米黃熱研究隊ノリード Reed 及カロール Carroll ラゼイアー Lazar 及アグラモント Agramonte 氏等ハ一九〇〇年黃熱流行地玖巴島ニ出張シ實驗的感染試験ヲ行ヒ黃熱病ハステゴミヤ蚊ニ依リテ傳搬セラル、者ナルヲ確メタリ且ツ同時ニレゼイアー及リード二氏ハ感染死去シカロール及アグラモンド氏ハ九死ニ一生ヲ得タリ是レ實ニ壯烈ナル研究ノ犠牲ナリキ然レモ此ノ犠牲研究ヨリ生ジタルステゴミヤ蚊ノ撲滅ハ遂ニ同地ニ黃熱ヲ消失セシメテ一舉パナマ運河開通ヲ安全ナラシメタリ我ガ醫學ノ研究又偉ナリト云フベシ而シテ黃熱傳搬蚊ハステゴミア・フシア

第百四十五圖

黃熱蚊
ターアシフ・アミゴテス
nach Corroll
雌



雄



「タ」*Stegomyia fasciata* (又ハ「*Stegomyia calopus*」或「*Culex calopus*」ノ名アリ)ハ廣ク全世界ニ分布シ
亞細亞ニ於テハ日本、南方支那、印度、南洋諸島ニ之レヲ見ル即チ若シ「黃熱蚊」雌ノ吸血ニ
依リ蚊胃中ニ入りタル「黃熱病毒」ハ三日間ハ猶發病力ヲ有ス故ニ其ノ刺螫ニ依リテ傳
搬感染セラルル然レモ三日以後ニ至レバ蚊體內ニ「病毒」消失シテ傳搬スルコトナシ是レ「麻
刺利亞原蟲」ト甚ダ趣キヲ異ニスルノ點ナリ

五 爾他不明病原體

爾他ノ左記疾病ニシテ今日迄細菌或原蟲等ノ見出ヲ以テ報告セラレタルモノ多々

アリト雖未ダ其眞因明カナラズ今ハ唯ダ「*an*」ハ其ノ病名ノミヲ舉グルニ止メン
麻疹、猩紅熱、百日咳、發疹室扶斯、恙病、^{ツツガムシ} 偻麻室斯、水瘡、懷血病、「トラホー
ム」急性小兒麻痺、「バ、タチ熱」牛疫、獸口蹄疫等
不明病原體ノ傳搬徑路 不病原體ノ傳搬徑路トシテ今日迄知ラレタル昆蟲類左ノ如
シ。

- 一「黃熱」……………蚊「*Stegomyia fasciata*」
- 二「恙蟲病」……………毛蠱「*Trombidium*」
- 三「發疹室扶斯」……………蠱「*Pediculus vestimentorum*」
- 四「ロツキー山斑點熱病」……………「*Dermacentor occidentalis*」
- 五「デング熱」……………蚊「*Culex fatigans*」
- 六「バ、タチ熱」……………蚊「*Phlebotomus papatasi*」

第七編 濾過性病毒編

Filterbarer Virus, Filtrable Virus

不明病原體ニシテ其ノ病毒 Virus ノ稍ヤ明ナルモノアリテ其ノ未ダ今日ノ顯微鏡ヲ以テ見出シ得ズト雖若シ濾過器ヲ濾過セシムレバ能ク通過シテ猶ホ病毒ヲ含ミ之レヲ動物ニ接種スレバ依然トシテ發病力アルモノアリ是レヲ稱シテ濾過性病毒或ハ單ニ濾過毒ト云フ而シテ此ノ際使用スル濾過器ハ磁製細菌濾過器ニシテ濾孔最モ細密ノモノナラザルベカラズ即チベルケフエルド氏第五號 Berkefeld V 又ハシヤンペラン氏F號 Chamberland F 之レニ適ス猶ホシヤンペラン氏Fノ一號ヨリFノ十號 Chamberland F 一モノヲ用ユルモ可ナリ而シテ濾過性病毒トシテ知ラレタルモノ左ノ如キモノアリ今ハ單ニ爰ニ名稱ノミヲ舉ゲン

- 一、天然痘毒
- 二、發疹室扶斯病毒
- 三、急性小兒麻痺病毒
- 四、狂犬病毒
- 五、黃熱毒
- 六、牛痘毒

- 七、牛胸肺炎毒
- 八、牛疫毒
- 九、獸口蹄疫毒
- 十、馬疫毒
- 十一、馬貧血病毒
- 十二、羊痘毒
- 十三、豚熱及豚コレラ毒
- 十四、犬瘟熱毒
- 十五、鳥ベスト毒

第八編 非病原菌 Nicht-pathogene Bakterien

Apathogene Bakterien, Non-pathogenic Bacteria, Apathogenic Bacteria

非病原菌ノ種類極メテ多ク今日其ノ數千餘種ヲ算フベシ然レモ茲ニ本書ハ病原菌研究ニ當リテ毎常最モ多ク遭遇スル主要ナル非病原菌ノミヲ記セントス故ニ其ノ分類所屬ノ如キハ省キタリ

一 枯草菌 Bacillus subtilis

種 Heubazillus, 英 Haybacillus

所在 極メテ廣汎枯草ハ勿論空氣、水、土地、糞便、腐敗物等ニ存シ天地到ル處ニ在リ、爲メニ屢々培養ニ混入シテ吾人ノ作業ヲ碍クルコト毎常ナリエーレンベルヒ Eihenbergh 氏初メテ枯草浸汁ヨリ發見シタルヲ以テ枯草菌ノ名アリ
形態 狹長ノ大桿菌ニシテ長サ小ナルハ一乃至三、ミクロン大ナルハ五乃至十、ミクロン幅〇・八乃至一・二、ミクロンヲ算ス兩端ハ鈍圓ニシテ孤立又ハ連鎖シ芽胞ハ卵圓形ニシテ中央ニ在リ緩慢ナル運動ヲナシ鞭毛ハ兩端ヨリ生ス、普過色素ニ容易ニ染色シ又グラム氏法ニ著色ス

第五百五圖 枯草菌



第五百六圖 (胞芽) 枯草菌



培養 通性
好氣性菌ニシテ空氣ノ存スルトコロニ盛ンニ發育シ室溫、孵卵器内共ニ發育佳良ナリ

- 一、寒天平板 圓形灰白色、ニシテ肉眼上顆粒狀ノ「コロニー」ヲ呈シ鏡檢スレバ中央暗褐色周圍縮毛狀ヲ呈ス
- 二、寒天高層 穿刺線ニ沿フテ灰白色索狀ニ發育シ殊ニ上面發育佳良ナリ
- 三、ゲラチン平板 圓形灰白色顆粒狀ノ「コロニー」ニシテ鏡檢上黃褐色、縮毛狀ヲ呈シ速ニ液化ヲ來シ皿凹狀ノ陥沒ヲ呈ス
- 四、ゲラチン高層 穿刺線ニ沿フテ發育シ殊ニ上面發育佳良ナリ而シテ速ニ液化ヲ來ス
- 五、「ブイオン」全液溷濁シ表面ニ白色皺襞狀ノ菌膜ヲ浮ブ

六、ベプトン水 同

七、牛乳 初メ凝固スルモ後溶解スルニ至ル

八、馬鈴薯 厚キ帶黄白色ナル泥狀菌苔ヲ生ス

實習 實習ニ當リ本菌ヲ分離スルハ容易ニシテ左ノ如シ

一、寒天平板 數個ノ寒天平板培養基ヲ作り蓋ヲ開キタル儘室外ニ三十分—一時間放置シ後蓋ヲ覆フテ孵卵器内ニ培養スルキハ氣中種々ナル雜菌ト共ニ多數ニ本菌コロニーノ發生ヲ見ルベシ

二、寒天斜面 同

三、枯草汁 枯草少許ヲ細挫シ水ニ入レ五—十分間煮沸シ次テ室温又ハ孵卵器内ニ藏ムルキハ二十四—四十八時間ノ後表面ニ枯草菌々膜ヲ浮ブ之レヲ更ニ雜菌ト分離セシニハ七十度ニテ一時間煮沸スルニアリ然ルキハ本菌芽胞ノミ生存ス依テ之レヲ寒天又ハ「ブイオン」ニ移植シ孵卵器ニ培養スルキハ二十四時間ノ後能ク本菌ノ純粹培養ヲ求メ得ベシ

注意

枯草菌ハ其ノ形態培養共ニ脾脫痘菌ニ酷似セルヲ以テ常ニ克ク兩菌ノ區別點ヲ知悉セザルニカラズ宜シク脾脫痘菌ヲ見ルベシ

二 馬鈴薯菌

Bacillus mesentericus
同 *Kartoffelbazillus*, 寒 *Potato bacillus*

普通馬鈴薯菌 *Bacillus mesentericus vulgatus*



第五百七十七圖

普通馬鈴薯菌

ニ著色シ又グラム氏法ニ著色ス

培養 通性好氣性菌ニシテ室温、孵器内共ニ發育佳良ナリ

一、寒天平板 圓形灰白色縮縮狀ノ「コロニー」ニシテ容易ニ剝離シ屢々皺襞内ニ水液ヲ蓄フ「恰モ水疱疹」ノ如シ

二、寒天斜面 劃線ニ沿フテ皺襞狀「コロニー」トナリテ廣ク發育ス

三、「ゲラチン」平板 不正圓形灰白色縮縮狀ノ「コロニー」ニシテ鏡檢上中央黃褐色周圍放線狀ヲ呈シ且ツ速ニ「ゲラチン」ヲ液化スルニ至ル

四、「ゲラチン」高層 穿刺線ニ沿フテ灰白色索狀ニ發育シ且ツ速ニ上面ヨリ液化ヲ來ス

五「*パイオン*」全液濁濁シ且ツ表面ニ皺襞狀菌膜ヲ浮ブ
六「*ベプトン*」水 同

七牛乳 初メ凝固スルモ後溶解スルニ至ル

八馬鈴薯 黄白色皺襞狀菌苔ヲ生ジ粘稠ナリ

注意

本菌芽胞ニ就キ宜シク芽胞染色法ヲ習得スベシ

三 靈菌 *Bacillus prodigiosus* (Flügge)

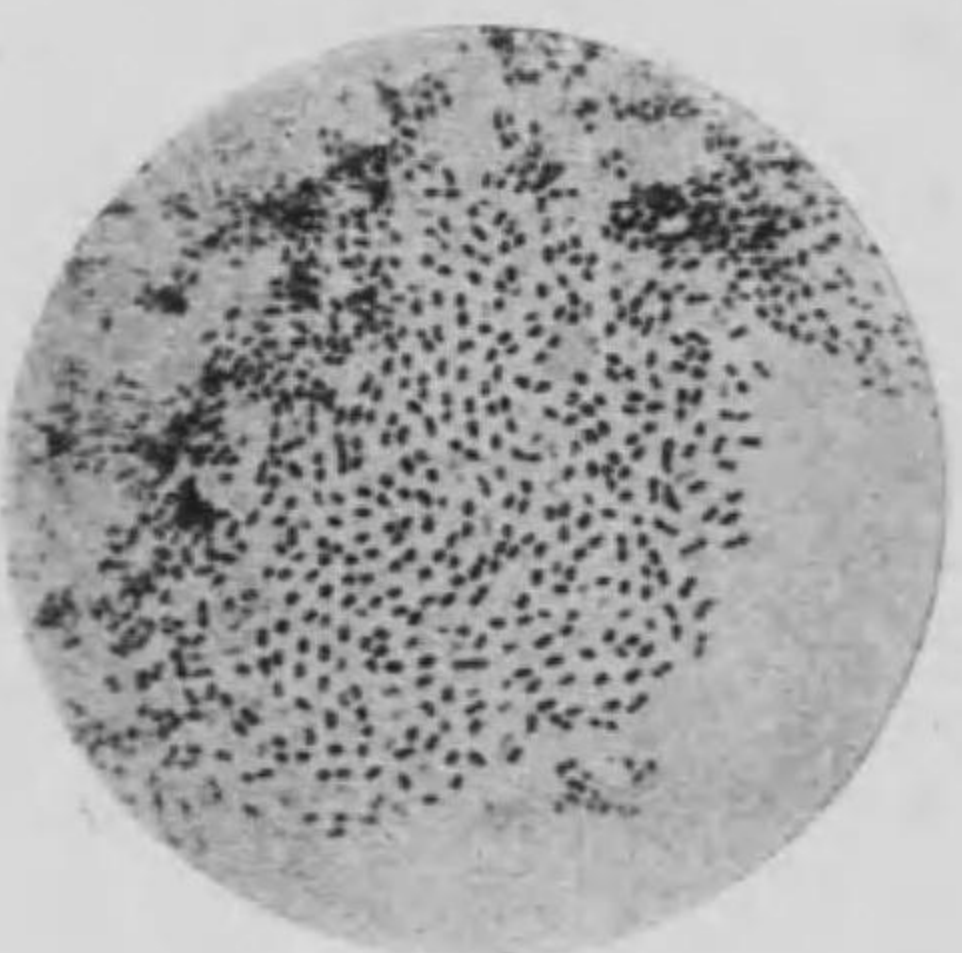
Bacterium prodigiosum (Ehrenberg)

Micrococcus prodigiosus (Cohn)

所在 極メテ廣汎到ル處ニ在リ殊ニ馬鈴薯、濕潤麵麩等ニ天然ニ發育シテ美麗ナル赤色素ヲ產生ス即チ往昔一夜忽然トシテ馬鈴薯面ノ赤色ニ變化スルヲ見テ世人之レヲ神血ナリト驚キタリシ「*アール*」ヲ以テ靈菌ノ名ヲ得タリ
形態 短小ナル桿狀菌ニシテ一見球菌ノ如シ緩慢ナル運動ヲ呈シ數條ノ鞭毛アリ普通色素ニ著色シ「*グラム*」氏法ニ脱色ス
培養 適温ハ室温(二十五—三十度)ニシテ孵卵器(三十七度)内ハ却テ不良ナリ、通性好氣性菌ナリ

一、寒天 圓形、灰白色稍々隆起セル「*コロニー*」ニシテ鏡檢上顆粒狀構造ヲ呈シ、酸素ニ逢

第百五十八圖 靈菌



フテ益々赤色ヲ呈ス、斜面ニ劃線スレバ厚キ菌苔トナリ美麗ナル赤色ヲ呈ス

二「*ゲラチン*」平板面「*コロニー*」ハ圓形、灰白色ニシテ鏡檢上褐色顆粒狀ヲ呈シ、速ニ液化シ酸素ニ逢フテ益々赤色ヲ呈スルニ至ル高層ニ穿刺スレバ克ク發育シ表面ハ赤色ヲ呈シ速ニ液化ヲ來ス

三「*パイオン*」全液濁濁シ表層ハ赤色ヲ帶ブ

四牛乳 發育佳良表面赤色ヲ呈シ色素ハ脂肪球ニ附著ス

五馬鈴薯 發育佳良ニシテ厚キ菌苔ヲ生シ最モ美麗ナル血液様暗赤色ヲ呈ス

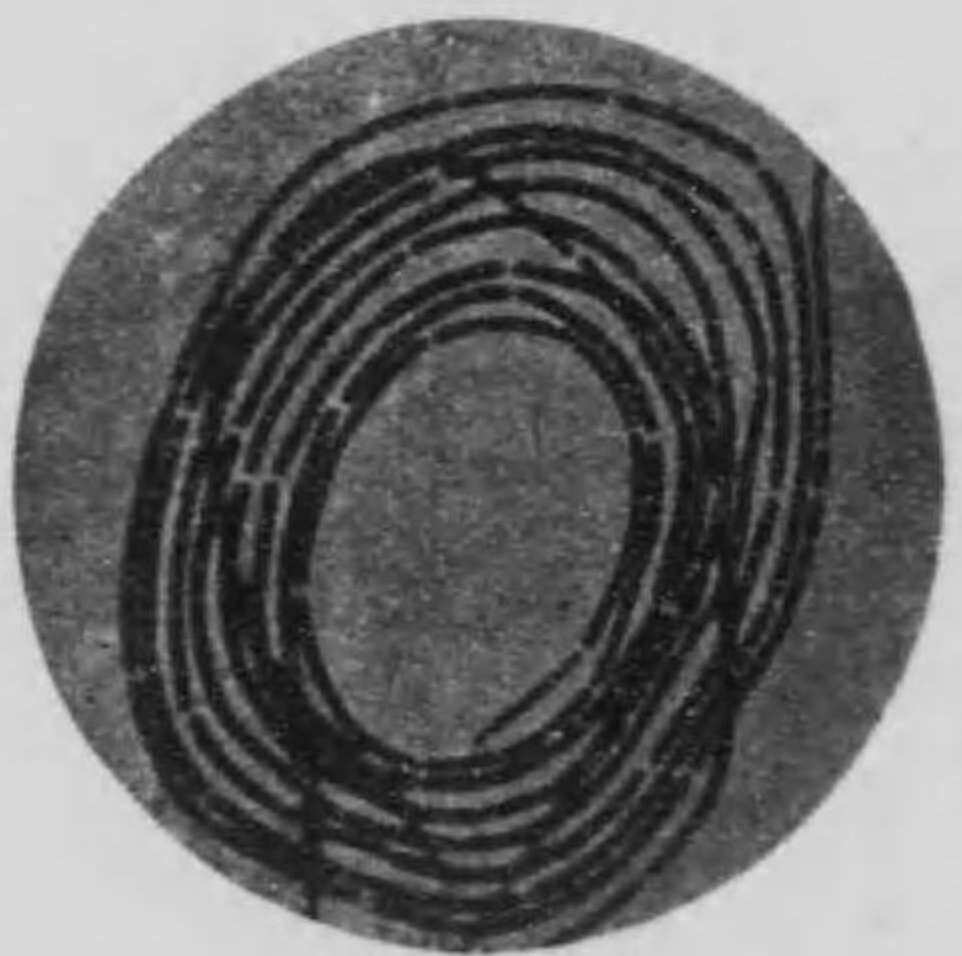
色素。本菌產生色素ハ菌體外ニ排出シ酸素ニ觸レテ初メテ著色シ赤色ヲ呈ス、水ニ溶解セズ故ニ培養基ヲ着色セズ「*アルコール*」及「*エーテル*」ニ溶解シ、鹽酸ニ脱色ス

四 根狀菌 *Bacillus radicosus*

種 *Wurzelbazillus*, 英 *Rootbacillus*

名義 本菌ハ「*コロニー*」ノ發育狀況恰モ草木ノ根枝ニ似タルヲ以テ根狀菌ナル名ヲ得タリ

第百五十九圖
根 狀 菌



向フテ枝狀ニ發育シ恰モ杉樹ノ枝葉ニ似タリ、ゲラチン面及高層モ同様ニシテ且ツ液
化ヲ來ス

五 巨大菌 *Bacillus megaterium* *Riesenbazzillus*, * *Giantbacillus*

所在 園土、水、腐敗液等ニ存在ス
形態 細菌中ノ大桿菌ニシテ長サ五—十ミクロン、横徑二・五ミクロンヲ算シ兩端ハ鈍
圓ニシテ稍々彎曲ス屢々數個乃至十數個尙ホ多數ニ連鎖ス鏡檢上顆粒狀造構ヲ呈シ、
芽胞ハ菌體ノ中央ニ位ス、運動微弱ニシテ數條ノ鞭毛ヲ有ス普通色素ニ著色シ又グラ

ム氏法ニ著色ス

培養 偏性好氣性菌ニシテ空氣ノ無キ所ニ發育困難ナリ適温ハ二十度内外ニシテ寒
天面ニ圓形灰白色ノコロニーヲ生シ其面ヨリ容易ニ剝離ス、ゲラチンニ細小圓形、黃色
ノコロニーヲ生ジ之レヲ鏡檢スルニ不正ナル顆粒狀造構ヲ見ル而シテ徐々ニゲラチ
ンヲ液化ス、馬鈴薯面ニ厚キ灰白質粘稠ノコロニーヲ發生シ盛ンニ芽胞ヲ形成ス

六 乳酸菌 *Bacillus butyricus* (Hüppe)

本菌ハヒュツペー氏ガ牛乳中ヨリ分離シタルモノニシテ乳糖ヲ分解シテ乳酸ト爲シ
牛乳ヲ凝固スルヲ以テ乳酸菌ノ名アリ

所在 極メテ廣汎ニシテ屢々生牛乳中ニ存在ス

形態 稍ヤ狭長ナル桿菌ニシテ多クハ二個連結ス、芽胞アリ大ニシテ光線ヲ屈曲ス、運
動ヲ有セズ、普通色素ニ著色シ又グラム氏法ニ著色ス

培養 通性好氣性菌ニシテ十度以上ニ發育スルモ適温三十七度ナリ

一、寒天斜面 菲薄透明黃帶白色ノコロニーヲ生ス

二、ゲラチン平板 初メ細小、白色點狀ノコロニーニシテ後チ速ニ磁器様光澤ヲ呈ス之
レヲ鏡檢スルニ表層ノコロニーハ恰モ廣布セル木葉ノ如シ

三、ゲラチン高層 穿刺線ニ沿フテ克ク發育シ數日ノ後チ表面穿刺部ニ厚キ乾燥セル

菌若ヲ生ズ、ゲラチンヲ液化セズ又瓦斯ヲ發生セズ
 四、馬鈴薯 帶黃褐色軟膏様ノ「コロニー」ヲ發生ス
 五、牛乳 之レニ發育シテ乳糖ヲ分解シ乳酸及炭酸ヲ生シ爲メニ牛乳ヲ凝固スルニ至ル

注意 本菌ハ再ヒ同一培養基ヲ通過セシムルトキハ遂ニ其ノ酸酵作用ヲ失ヒ乳糖ヲ分解セザルニ至ル其他、乳酸菌ノ種類、極メテ多シ、

本書ニ挿入シタル圖書ハ多クハ著名ナルモノナルヲ以テ煩ヲ避クル爲メ其ノ出者ヲ省略セリ

病原微生物學各論完

病原微生物學各論索引

陰囊水腫液寒天(スタインシナイデル氏法)	九	ルクリン	一一八	菌	九〇	チン	二八〇
インドル反應	六九	「ロツキ」山斑點熱	六一三	バスタール氏接種法	一一五	馬疫菌	一九七
インドル反應檢査法	六九	濾過性病毒編	六一四	「パチロヂン」	一一八	破傷風毒素	三〇三
イケウツチ氏法	一一八	ハババ	六	ハウスセル氏ノ染色法	一五一	破傷風病瘰癧素	三〇三
インドル不産大腸菌	一一三	バツベンハイム氏液	一四	バウムガルテン氏染色法	一五四	破傷風毒素ノ理化學的性狀	三〇五
意外菌	一一五	「バラゴノコックス」	二二	法	一五四	破傷風溶血素	三〇五
イエッター及マギオラ氏	一一八〇	肺炎球菌	二二	バーベス、エルンスト氏小體	一五九	破傷風ノ細菌學的診斷法	三〇八
「ワクチン」	一一八七	肺炎球菌溶血素	二七	バーク及ウィリアム氏法	一七四	破傷風抗毒素ノ製法	三〇九
印度蚤	一一八	肺炎球菌血清療法	二七	鳩實扶利菌	一八八	破傷風血清檢定法	三〇九
インフルエンザ菌	三三七	肺炎球菌「ワクチン」療法	二九	バイフェル及コルレー氏「ワクチン」	二二四	破傷風血清療法	三〇九
印度種再歸熱「スピロヘータ」	四五四	肺炎球菌化學的療法	二九	バセンゼ及リンパウ氏「ワクチン」	二二四	破傷風血清檢定の注射	三二〇
肺咬症「スピロヘータ」	四六七	肺炎球菌細菌學的診斷	二九	パンチ及マイエル氏「ワクチン」	二二六	破傷風血清預防的注射	三二一
犬「ビロプラスマ」	五五六	白血球殺素	五二	「バラチフス」A菌	二二七	馬鼻疽病ノ細菌學的診斷法	三二五
「ロイコチチン」	五二	白色化膿性葡萄狀球菌	五五	「バラチフス」B菌	二二七	微菌	三七二
ローゼンバツハ氏「ツベ	五二	八聯球菌	六二	「バラチフス」A菌「バラチフス」B菌トノ區別	二二四	醱酵菌	三八三
		ハフキン氏豫防液	七四	ハフキン氏「ベストワク	二六五	微毒「スピロヘータ」	四〇四
		バイフェル氏反應檢査法	八二			微毒ノ微生物學的診斷法	四二一

法	二二二	淋菌培養基	九
チフイヂン	二二三	淋菌毒素	一一
空扶斯ノ細菌學的豫防法	二二三	淋菌血清	一一
空扶斯豫防液接種法	二二四	淋菌ワクチン	一三
空扶斯菌及大腸菌屬類	二二四	淋毒性病ノ細菌學的診斷法	一三
似菌鑑別表	二六三	流行性腦脊髄膜炎ノ細菌學的診斷法	一八
チユクレイ氏菌	三三三	綠色連鎖球菌	三五
チビゲル氏分岐菌	三三八	リブマン氏腸炎連鎖球菌	四六
チゴスビールン	三七一	流行時ニ於ケル診斷法(コレラ)	八四
醱母	三八三	リチン	一一〇
人體内血中麻刺利亞寄生蟲ノ繁殖狀況	五二四	綠痢菌	二六五
鳥類スピロヘーテン	四七九	流行性感冒菌	三三七
腸内スピロヘーテン	四七八	綠膿菌	三四五
腸内トリコモナス	五七七	淋巴腺スピロヘータ	四七四
人トリコモナス	五七八	兩性繁殖	五二七
腔トリコモナス	五七八	リッケット及プロワゼツク氏小體	五八九
腸内ランブリア	五七六	リッケットシア、プロワゼツク	五八九
爾他アノーバ類	五七五	リンデルマン氏「サルコチスチス」	五六五
腸内原蟲類	五七五	キ	
リ		オ、ヲ	
淋病球菌	五	金黄色葡萄狀球菌	四七
淋病藥	八	オプソニン	七四
		鸚鵡病菌	二六二
		又	
		ヌトロローゼ寒天	一〇
		ル	
		ルイ及モチニコフ氏豫防液	七六
		ルック氏ツベルクリン	一二八
		ルイ氏法	一六一
		ルイ及マルチン氏法	一七三
		ルイ氏檢定法	一七九
		類似大腸菌	二五三
		ルスティヒ及ガレオッチー氏法	二八一
		類似「スピロヘータ」トノ鑑別	四二〇
		ルエチン反應	四三五
		類似「トリパノゾーマ」類	五〇〇、五〇四
		類似天然痘病	五九八
		ワッセルマン氏豚血清	一〇
		ワイス連鎖球菌	四六
		ワンスン氏菌	一九〇
		ワンスン氏病	一九〇
		ワンスン氏スピロヘータ	一九〇
		ワッセルマン氏ワクチン	二一五
		ワッセルマン氏反應	四二三
		ワ	
		カガ	
		假性淋毒球菌	一四
		加答兒性球菌	二〇
		化膿性連鎖球菌	三三、三二

化膿性連鎖球菌毒力保存法	三六	假性馬鼻疽菌	三三六
感作ワクチン	四二	假性流行性寒胃菌	三四〇
ガベレット氏連鎖球菌	四六	葉梗	三七〇
カルリンスキー氏表	四六	營口瘡菌	三七五
化膿ノ理由	五四	芽生菌	三八三
壁島氏培養基	八〇	家兔微毒	四一七
桿狀菌類	九五	化學療法ト藥物療法トノ差異	四三九
喀痰中結核菌ノ染色法	九七	各種再歸熱「スピロヘータ」ノ差異	四五七
ガベット氏法	九七	縮腫「スピロヘータ」	四七四
家兔ノ結核菌接種試驗	一一一	蚊「スピロヘータ」	四八二
喀痰染色法	一一七	牡蠣「スピロヘータ」	四八四
ガフキー氏表	一一八	「カデラ」病「トリパノゾーマ」	五〇二
カルメット氏ツベルクリン	一二八	「ガルヂーク」病	五〇三
假性結核菌	一四九	蛙「トリパノゾーマ」	五一〇
假性實扶利菌	一八六	「カラアザール」病	五一四
珈琲培養基	二二〇	各種「シマニア」類	五二二
假性バラチフスA菌	二二〇	夏秋麻刺利亞熱	五三〇
假性赤痢菌	二三四	蚊體ニ於ケル麻刺利亞	五三五
瓦斯不發性大腸菌	二五三	寄生蟲繁殖	五三八
假性ゲルト子ル氏菌	二五六	蚊ノ種類	五三八
假性空扶斯菌	二六六	蚊ノ區別	五四一
家兔敗血症菌	二九六		
假性鳴疽菌	三三〇		
		タタ	
		單球菌類	一〇
		タールマン氏培養基	一一
		唾液菌	一一
		丹毒菌	一一
		短連鎖球菌	一一
		唾液連鎖球菌	一一
		タウニル氏血清	一一
		丹毒治療液	一一
		蛋白溶解酵素	一一
		淡黃色四聯球菌	一一
		短螺旋狀菌類	一一
		唾液螺旋狀菌	一一
		多形性	一一
		脱脂ツベルクリン	一一
		タンニクリフ氏培養基	一一
		胆汁培養基	一一
		多價血清	一一
		大腸菌溶血素	一一
		大腸菌分離培養法	一一
		大腸菌ノ細菌學的診斷	一一
		大腸菌ノ細菌學治療及豫防法	一一
		五	

松下氏分類法	三	麻刺利亞ノ豫防法	五四九	結核ノ細菌學的治療法	一二四	腹水寒天培養基(キープル氏法)	九
マルモレック氏血清	四〇	麻刺利亞ノ治療法	五五〇	結核菌乳劑	一二七	ブナム氏人胎盤血清	一〇
マルター熱桿菌	五六	マロリー氏小體	五八七	結核及癩病菌屬鑑別表	一五七	フインゲル氏尿寒天	一〇
マルター熱桿菌	五七	マン氏狂犬病小體染色法	六〇〇	結膜乾燥菌	一八九	フレンケル氏肺炎菌	二二
マラヒトグリオン培養基	一一〇	血液染色液	六	結膜乾燥症	一八九	フリードレンデル氏法	二二
マンニトラクムスベプトン水	二二九	血液寒天培養基	九	血清檢定法	一七五	フリードレンデル氏法	二四
マレイン	三三四	血清ブイオン	九	血液培養	二〇四	フライット氏連鎖球菌	三五
マツラー分岐菌	三六七	捲縮性連鎖球菌	三三	ゲルトキル氏腸炎菌	二五四	フエシリー氏連鎖球菌	四五
マリノ氏法	四〇九	螢石光連鎖球菌	四六	鶏コレラ	二九〇		
マクネール氏法	四一〇	結核菌屬	九五	犬瘟熱菌	二九七		
マイロウスキ氏ノ「ス」	四六一	結核菌ノ化學	一〇八	原蟲ノ名義	三三〇		
ビロヘータ「蓄」	五二二	結核菌ノ培養	一一〇	原蟲學	三八九		
麻刺利亞原蟲	五二二	結核菌產生毒素	一一四	原蟲學發達史	三八九		
麻刺利亞原蟲種類	五二四	結核菌分離培養方法	一一六	原蟲ノ一般形態學	三八九		
麻刺利亞原蟲保有者	五二六	結核ノ細菌學的診斷法	一一七	原蟲ノ一般生物學	三九九		
麻刺利亞寄生蟲鑑別點	五三二	結核菌檢出法	一一七	原蟲ノ分類	四〇〇		
麻刺利亞寄生蟲ノ培養法	五三三	結核菌免疫反應法	一一七、一二〇	原蟲界			
麻刺利亞寄生蟲ノ發育環	五三八	結核菌檢出法	一一七				
麻刺利亞ノ微生物學的診斷法	五四六	結核菌染色法	一一七				
		結核菌凝集反應	一一三				
		結核菌補體結合試驗	一二四				

フレキシナード氏菌	一一二九	プロワゼツク氏	五九〇	コレラ菌及其ノ類似菌	八六	結草菌	六一六
普通大腸菌	二四四	不明病原體	五九一	鑑別表	八六	根狀菌	六一二
普通大腸短桿菌	二四五	不明病原體類	六一二	口腔ウイブリオ類	九四		
不動性大腸菌	二五三	不明病原體ノ傳播徑路	六一三	抗酸性	九六		
豚虎列刺菌	二五七	復種牛痘苗	五九六	抗酸性菌	九六		
フリードベルゲル氏菌	二六六	豚痘	五九八	抗アルコホル性	九六		
ブレスラウ菌	二六六	普通馬鈴薯菌	六一九	コッホ氏法	九九		
豚疫菌	二九四			コッホ氏最新ツベルクリン	一一七		
フルオレスチン	三三七			コンラージ及ドリガル	二〇八		
フリードレンデル氏肺	三五一			スキ氏培養基	二〇八		
炎症菌	三九九			コンラージ氏法	二〇四、二二〇		
ブッチリー氏法	三九九			羣丸炎菌	三三六		
ブロカ及ヴァシレスク氏法	四一〇			コッホ及ワイクス氏菌	三五六		
分岐狀菌類	三六三			コニチエン	三七一		
熱帯蕈痘スピロヘータ	四六七			酵母	三八三		
分裂繁殖	五二四			口腔スピロヘータ	四七五		
ブラスモヂウム、ウイウ	五二五			昆蟲「スピロヘータ」	四八二		
ラックス	五二五			コノリスス、メギステ	四九七		
ブラスモヂウム、マラ	五二八			ユス(野蟲)	四九七		
リアエ	五三〇			コクシヂウム類	五七二		
ブラスモヂウム、プア	五三〇			口腔アメーバ	五七四		
ルシバム	五三〇			固有アメーバ	五七四		
プロテオゾーマ	五五二			固定毒	六〇五		
プロワゼツク氏小體	五八三						

エントアメーバ、テトラ ゲイナ	五七〇	氏表	三六	アノフェレス蚊	五三五	再歸熱ノ微生物學的診 斷法	四五八
エントアメーバ、コリー	五七二	アロンソン氏血清	四〇	アノフェレス、マクリ ベニス	五三五	再歸熱ノ微生物學的治 療法	四五八
テ、テ		アンドリュウ及ホーダー 氏血清	四〇	アノフェレス、シネン シス	五三五	魚、トリバノゾーマ	五一
テネケイ氏菌	九三	淺川氏丹毒治療液	四二	「アノフェレス蚊ト」ク イレックス蚊トノ區別	五四一	猿麻刺利亞寄生蟲	五五一
デニス氏ツベルクリン	一一八	アンチロイマチゼン	五四	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	猿ビロブラスマ	五五八
織ツベルクリン	一一八	アロアン氏平等(瀉瀉)	五五	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	サルコスホリチア類	五六四
テベアン	一一八	培養	一〇六	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	探苗	五九七
鳥結核菌	一四七	アルブモーゼ(キョーネ 氏)	一一〇	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	サモア痘	五九八
テルニール及バンヂー氏 法	二八一	アンチフォルミン應用法	一一六	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	キ、キ	
蕪風菌	三二二	アツベイ氏法	一一九	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	球菌類	
照内氏法	四三二	アンチフチゼン	一一九	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	菌血性連鎖球菌	二二
デコンゲルン氏反應	四三四	「アルカリ」性糞便菌	一二八	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	牛乳房炎連鎖球菌	四四
テキサス熱寄生蟲	五五三	亞寮扶斯菌	一二六	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	キルヒチル氏連鎖球菌	四六
天然痘毒小體	五八五	惡性鼻炎菌	一二六	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	既往感染ノ診斷法(コレ ラ)	八五
天然痘	五九一	アスベルギルス	三二四	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	蕪ツベルクリン	一一〇
天然痘毒	五九二	阿弗利加種再歸熱、スピ ロヘータ	三七二	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	北里氏法	一一五
天然牛痘苗	五九五	亞米利加種再歸熱、スピ ロヘータ	四五四	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	牛結核菌	一四四
デング熱	六一三	アゲロメラチオン	四五四	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	牛結核ノ「ツベルクリン」 診斷法	一四六
ア		惡性三日麻刺利亞熱	五〇九	アノフェレス蚊トノ區別	五四一	牛酪酸	一五二
アルコック氏培養基	一〇			アノフェレス蚊トノ區別	五四一	北里氏菌	二九六
アンギーナ連鎖球菌	三五			アノフェレス蚊トノ區別	五四一		
アンドリュウ及ホルダー				アノフェレス蚊トノ區別	五四一		

牛肺疫菌	二九七	メレスコースキー氏菌	二二六	四聯球菌	六〇	病原細菌類	六一四
牛放線狀菌	三六三	盲蚤	二九〇	初生兒患者診斷法	八三	ヒ、ヒ、ヒ	
菌絲	三七〇	ミクラー氏分類法	二	人結核菌	九五	病原細菌類	
ギームザ氏法	四〇七	ミクロプロテイン	五二	新ツベルクリン	一二六	ヒツク及ヤコブソン氏液	七
ギコンテル氏法	四五〇	三日熱麻刺利亞寄生蟲	五二四	耻垢菌	一五〇	ヒス氏法	二二四
龜頭炎スピロヘータ	四七二	三日熱小環狀態	五二六	シヤントメス氏毒素	一九七	病原連鎖球菌ノ種類	四五
菊花狀分裂	五二六	三日熱大環狀態	五二六	志賀クルーゼ氏菌	二二六	ヒルシ氏連鎖球菌	四六
キョーレックス蚊(クヲ見 ヨ)	五三九	三日熱大環狀態	五二六	志賀氏法	二二六、三四一	ピロン氏培養基	八〇
筋肉内寄生原蟲類	五六四	三日熱大環狀態	五二七	シルベルシミット氏菌	二六六	ビーデルト氏法	一一八
牛痘	五九三	三日熱大環狀態	五二七	出血性敗血症菌屬	二六七	砒素ツベルクリン	一一八
牛痘接種法	五九三	三日熱小生殖體	五二七	出血性紫斑病菌	一九七	標準實扶培利毒素	一七二
牛化牛痘苗	五九六	ミーンセル氏「サルコチ ステス」	五六四	人放線狀菌	三六三	肥田氏法	一七四
牛痘	五九七	シエーフェル及スタイ ンシナイデル試験	八	絲狀菌	三七〇	標準血清	一七五
狂犬病	五九八	人血清寒天培養基(ウエル トハイム氏法)	九	人酸酢菌	三八六	脾穿刺培養法	二二一
狂犬病毒	六〇二	漿水液(アイオン)	九	白蟻、スピロヘータ	四八二	人蚤	二二八
狂犬病ノ診斷	六〇四	シエツフェル氏血清脾脫素	一〇	小兒カラアザール病	五一八	百日咳菌	三四一
狂犬病ノ豫防法	六〇五	猩紅熱連鎖球菌	三三	シユフネル氏斑點	五二六	ピオチアニン	三四七
共働狂犬病接種法	六〇七	人連鎖球菌	三三	猩紅熱小體	五八七	ピオチアサントーゼ	三四七
巨大菌	六二二	實驗的腺疫	四四	四胞アメーバ	五七〇	ピオチアナーゼ	三四七
メチニコフ氏菌	八八			種痘法	五九五	ピオチアノリヂン	三四八
メルレル氏菌	一五二			人痘接種法	五九五	菲翠玉菌	三五〇
				人化牛痘苗	五九五	鼻硬結菌	三五三
				小内球體	六〇〇	病原絲狀菌類	三七〇
				シヤンペランド氏濾過	六〇〇	病原酸酢菌屬	三八三

病原微生物學各論索引終

皮膚病醱菌	三三五	モラー及アキセンフェル	三三八	赤痢豫防液ノ製法	二四三	スベンダレル氏法	一一〇
病原原蟲類	三八九	ド氏菌	三五八	赤痢豫防接種成績表	二四四	ストツツエル氏菌	一一九
猫咬症スピロヘータ	四六七	モイナス	五七八	赤痢性大腸菌	二五三	水牛敗血症菌	二六六
羊「スピロヘータ」	四八一	セ		生長體	五二四	ストラウス氏反應	二九七
病原「トリパノゾーマ」		切片内淋菌染色法	七	生殖體	五二七	スピロヘータ類	三三四
鑑別表	五一二	切片内肺炎球菌染色法	二四	赤痢アメーバ	五六五	スピロヘータ、バルリダ	四〇一
ヒストプラズマ、カプス	五二〇	腺疫連鎖狀球菌	四三	赤痢アメーバノ繁殖狀	五六九	スピロヘータ・レフリン	四〇四
ラートユム	五二三	赤痢菌	二二四	況	五七一	ゲンヌ	四四四
ビロプラズマ類	五五三	赤痢毒素	二二九	赤痢アメーバ類似鑑別		水中「スピロヘータ」	四八三
羊ビロプラズマ	五七八	赤痢菌々型	二二九	表		睡眠病「トリパノゾーマ」	四八六
人「トリコモナス」	五六二	赤痢菌型分類用含水炭	二二七	ス		「ズラ」病「トリパノゾ	五〇〇
人「コクシジウム」	六一六	赤痢ノ細菌學的診斷法	二三八	スタインシナイデル、中	一〇	「マ」	五四一
非病原菌		赤痢ノ細菌學治療法	二四〇	條氏卵黃	五二	ステゴミア蚊	五四一
モ		全價血清	二四一	スタフィロリヂン	七五	ステゴミア、フラスシア	五四一
モーゼル氏血清	四〇	赤痢豫防接種法	二四三	ストロング氏豫防液	八六	ステゴミア、スクテルラ	五四一
モルモットノ結核菌接種	一一〇			水中コレラ菌検査法	九四	ステゴミア、ヤボニカ	五四一
試験				水中ゾイブリオ類			

大正六年七月十日印刷

大正六年七月十五日發行

病原微生物學各論索引終

正價金四圓五拾錢

著者 綿引朝光

發行者 鈴木幹太

印刷者 加藤晴吉

印刷所 會社正文舍

不許複製

發兌元

東京市本郷區龍岡町三十四番地
電話下谷四一七八・振替口座東京六三三八

南山堂書



東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

東京市本郷區龍岡町三十四番地

✽ 肆 書 捌 賣 ✽

本郷區湯島切通坂町	丸 善 書 店	南江堂書店
日本橋區通リ三丁目	半田屋書店	南江堂支店
本郷區春木町二丁目	南江堂支店	吐鳳堂書店
同 春木町三丁目	同	金原 書 店
同 龍岡町	同	朝香屋書店
同 湯島切通坂町	同	明文館書店
神田區鍛冶町	同	文光堂書店
本郷區元富士町	同	豐文堂書店
同	同	克誠堂書店
同	同	朝陽堂書店
同 龍岡町	同	根津 書 店
同	同	文榮堂書店
同 湯島切通坂町	同	宮澤 書 店
同	同	富倉 書 店
同	同	東京堂書店
神田區表神保町		
大阪市心齋橋筋一丁目	丸 善 書 店	松村九兵衛
同 博勞町	名古屋丸善書店	丸 善 書 店
名古屋市中區榮町	南江堂京都支店	若林茂一郎
京都市三條通	同	丸 善 支 店
同 寺町通	同	大黒屋書店
同 三條通	同	集榮堂書店
同 河原町通	同	長崎次郎
長崎市引地町	同	芹川 書 店
熊本市新二丁目	同	谷村 書 店
熊本市洗馬町	同	三宅 書 店
鹿兒島市仲町	同	渡邊 書 店
岡山市中ノ町	同	丸 善 支 店
岡山市内山下	同	宇都宮書店
福岡市博多上西町	同	丸 善 書 店
金澤市片町	同	萬松堂支店
仙臺市國分町	同	北光社書店
新潟市古町通		
同		

59
45

終